



# リアホナ



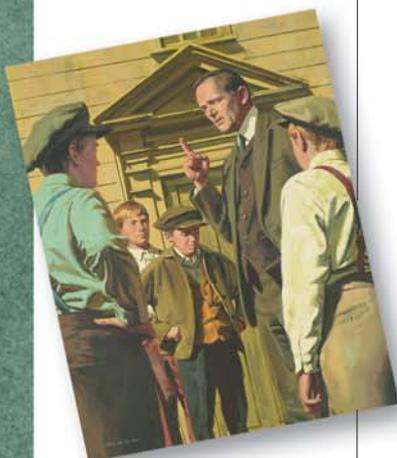
## 表紙

表紙—写真/マシュー・ライアー、  
写真はイメージです。  
裏表紙—写真/スティーブ・  
バンダーソン、複写は禁じられています。



## 「フレンド」表紙

写真/クレグ・ダイヤモンド、  
写真はイメージです。



「みんながするように」  
「フレンド」2ページを  
見ましょう。

## 一般

- 2 大管長会メッセージ—父親、母親、結婚 第二副管長 ジェームズ・E・ファウスト
- 10 聖餐会での礼拝 十二使徒定員会 ラッセル・M・ネルソン
- 16 祈りを改善する 十二使徒定員会 ジョセフ・B・ワースリン
- 25 家庭訪問メッセージ—自己を治めることを通して、主の愛を感じる
- 28 扶助協会に歓迎する ラリーン・ポーター・ガント
- 38 末日聖徒の声
  - 傾いた船の中で アーチー・D・スミス
  - 苦しみを克服して成長する ワシントン・ザンブラノ
  - わたしが必要としていた助け マーガレット・ケイ・クリステンセン
- 48 読者からの便り

## 青少年

- 8 壁の額 ジェレミー・ロバートソン
- 15 靈感による伝道の召し リンカーン・ピメンテル・マーティンズ
- 24 死にたくなかったのです マージド・A・カークパトリック
- 26 次の一步 シャンナ・バトラー
- 32 福音を聞く人 ングツィ・F・オコロ
- 34 徳質を歌う ジャネット・N・オークス
- 37 ポスター—汚れを落としなさい
- 42 天からの雨 七十人 ロナルド・T・ハルバーソン
- 44 質疑応答—わたしの友人はバプテスマを受けたいと言いますが、どうも福音よりもわたしの方に関心があるようです。わたしはどうしたらよいのでしょうか。
- 47 御存じでしたか

## フレンド

- F2 預言者の声—みんながするように 大管長 だいかんちょう ゴードン・B・ヒンクレー
- F4 分かち合いの時間—わたしの岩の上<sup>いわ</sup>にたてなさい シーラ・E・ウィルソン
- F6 ヒーバー・J・グラントだいかんちょうのしょうがいから—しとのあかし
- F8 デビッドのいのり パトリア・リース・ローパー
- F10 作<sup>つく</sup>ってみよう—しんこうのたて
- F12 小さなお友<sup>とも</sup>だちへ—家族<sup>かぞく</sup>の伝統<sup>でんとう</sup>
- F14 主が見守<sup>しゅ</sup>っておられたのです ジュリア・オールドロイド

「しんこうのたて」  
「フレンド」10ページを  
見ましょう。





原画／©グレッグ・K・オルセン、刺繍／©ジャシント・R・フレイレ・ロサレス・スマエタ、複製は禁じています

### 「最初の示現」 ジャシント・R・フレイレ・ロサレス・スマエタ作

ジョセフ・スミスは次のように記した。「わたしは……光の柱を見た。……その光がわたしの上にとどまったとき、わたしは筆紙に尽くし難い輝きと栄光を持つ二人の御方……を見た。」(ジョセフ・スミス—歴史1：16-17)  
グレッグ・K・オルセンが描いた「最初の示現」を基に、チリ伝統の刺繍法でその瞬間が再現されている。

末日聖徒イエス・キリスト教会公式機関誌(日本語版)

大管長会:ゴードン・B・ヒンクレー, トーマス・S・モンソン, ジェームズ・E・ファウスト

十二使徒定員会:ボイド・K・バックナー, L・トム・ペリー, デビッド・B・ヘイト, ニール・A・マックスウェル, ラッセル・M・ネルソン, ダリン・H・オークス, M・ラッセル・バラード, ジョセフ・B・ワースリン, リチャード・G・スコット, ロバート・D・ヘイルズ, ジェフリー・R・ホランド, ヘンリー・B・アイリング

編集長:ジェイ・E・ジェンセン

顧問:E・レイ・ペイトマン, モンティ・J・ブラフ, スティーブン・A・ウェスト

実務運営ディレクター:デビッド・フリッシュニク

企画編集ディレクター:ビクター・D・ケーブ

グラフィックスディレクター:アラン・R・ロイボーグ

機関誌編集ディレクター:リチャード・M・ロムニー

編集主幹:アービン・K・ガードナー

編集スタッフ:コレット・ネベカー・オース, スーザン・バレット, シヤナ・バラ, ライアン・カー, リンダ・ステール・クーパー, ラリー・ポーター, ガート, ジェニファー・L・グリーンウッド, R・バル・ジョンソン, キャリー・カステン, メルビン・リービッド, サリー・J・オデカーク, アダム・C・オゾン, ジュディス・M・パーラー, ビビアン・ポールセン, ドン・L・サール, レベッカ・M・テラー, ロジャー・テリ, ジャネット・トーマス, ボール・バンデンバーク・ジュリー・ワーテル, キンバリー・ウェーブ, モニカ・ウィークス

実務運営アートディレクター:M・M・カワサキ

アートディレクター:スコット・パン・カンペン

制作主幹:ジェーン・アン・ピーターズ

デザイン・制作スタッフ:クリー・アレンプラット, ハワード・G・ブラウン, トーマス・S・チャイルド, レジナルド・J・クリステンセン, キャスリー・ハワード, デニス・カービー, タット・R・ピーターソン, ランドール・J・ピグストン, カリ・A・トッド, クラウディア・E・ワーナー

マーケティング部長:ラリー・ヒラー

印刷ディレクター:クレグ・K・セジウィック

配送ディレクター:クリス・T・クリステンセン

●定期購読は、「リアホナ」注文用紙<sup>①</sup>でお申し込みになるか、郵便振替(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振替口座番号/00100-6-41512)にて教会管理本部配送センターへご送金いただければ、直接配送いたします。●「リアホナ」のお申し込み・配送についてのお問い合わせ……〒133-0057東京都江戸川区西小岩5-8-6/末日聖徒イエス・キリスト教会 管理本部配送センター 電話 03-5668-3391

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会 〒106-0047東京都港区南麻布5-10-30 電話 03-3440-2351

定価 年間予約/海外予約 2,400円(送料共) 半年予約 1,200円(送料共) 普通号/大会号 200円

「リアホナ」への投稿およびご質問は、下記の連絡先にお送りください。 Room 2420, 50 East North Temple Street, Salt Lake City, UT 84150-3220, USA 電子メール:cur-liahona-image@ldschurch.org

「リアホナ」(モルモン書)に出ている言葉、「羅針盤」または「指示器」の意は、以下の言語で出版されています。

アイスランド語, アルバニア語, アルメニア語, イタリア語, インドネシア語, ウクライナ語, 英語, エストニア語, オランダ語, 韓国語, カンボジア語, キリバス語, クロアチア語, サモア語, シンハラ語, スウェーデン語, スペイン語, スロベニア語, セブア語, タイ語, タガログ語, タチチ語, タミル語, 中国語, チェコ語, テルグ語, デンマーク語, ドイツ語, トンガ語, 日本語, ルウエー語, ハイチ語, ハンガリー語, フィジー語, フィンランド語, フランス語, ブルガリア語, ベトナム語, ポーランド語, ポルトガル語, マーシャル語, マダガスカル語, モンゴル語, ラトビア語, リトニア語, ルーマニア語, ロシア語。(発行頻度は言語により異なります。)

©2004 Intellectual Reserve, Inc. 著作権所有。印刷:日本 「リアホナ」に掲載されている文章や視覚資料は、教会や家庭において臨時に、また非営利目的に使用する場合は複製することができます。視覚資料に関しては、作品のクレジットに制限が記されている場合に複製できないことがあります。ご質問は、Intellectual Property Office, 50 East North Temple Street, Salt Lake City, UT 84150, USAに郵送するか、電話—1-801-240-3959, 電子メール—cp-intellectual-property@ldschurch.org にご連絡ください。

英語版承認—1996年8月 翻訳承認—1996年8月

原題—International Magazines August 2004

Japanese, 24988 300

「リアホナ」は、教会のホームページwww.lds.org (英語)に様々な言語で掲載されています。英語の場合は「Gospel Library」(福音図書館)をクリックしてください。その他の言語は世界地図をクリックしてください。

For Readers in the United States and Canada:

August 2004 no. 8 UAHONA (USPS 311-480) Japanese (ISSN 1521-4729) is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 East North Temple, Salt Lake City, UT 84150. USA subscription price is \$10.00 per year; Canada, \$16.00 plus applicable taxes. Periodicals Postage Paid at Salt Lake City, Utah, and at additional mailing offices. Sixty days' notice required for change of address. Include address label from a recent issue; old and new address must be included. Send USA and Canadian subscriptions and queries to Salt Lake Distribution Center at address below. Subscription help line: 1-800-537-5971. Credit card orders (Visa, MasterCard, American Express) may be taken by phone. (Canada Poste Information: Publication Agreement #40017431)

POSTMASTER: Send address changes to Salt Lake Distribution Center, Church Magazines, PO Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368.

「リアホナ」の活用法

# 家庭の夕べのための アイデア



## 「聖餐会での礼拝」10

ページ——聖餐の祝福の言葉を読んでください(教義と聖約20:77, 79参照)。わたしたちがパンと水にあずか

る度に、新たにしている聖約について話し合ってください。ラッセル・M・ネルソン長老は、聖餐式の間に一人一人が「自分を吟味し」、「神にかかわる神聖な事柄について冥想」するように勧めています。家族に次のことを尋ねてください。自分を吟味するとはどのような意味でしょうか。神にかかわる神聖な事柄には、どのようなものがあるのでしょうか。

「傾いた船の中で」38ページ——人生には、霊的な嵐に直面することが度々あります。嵐に遭うと、船が傾いてしまうことが度々あると説明してください。自分たちの船が流され始めたら、どのように持ち直せばよいか、家族に尋ねてください。

「靈感による伝道の召し」15ページ——ある宣教師が、靈感によってその伝道地に召された、と感じている理由について書かれています。家族で一緒に読んでください。家族の中に帰還宣教師がいる場合、伝道中に靈感を受けて証が<sup>あかし</sup>強められた経験があるか尋ねてください。

「天からの雨」42ページ——ロナルド・T・ハーバーソン長老が、ハアフェバを訪問したときの話を<sup>あかし</sup>読み、次のことを家族に尋ねてください。最後の食べ物<sup>あかし</sup>を分かち合う信仰がありますか。このような状況で、移動のため良い天気になるよう祈るほどの信仰について、想像してみてください。人生には干ばつに当たるような出来事があるで

しょうか。干ばつのような状況を緩和するために、どのような「雨」を祈り求めますか。

## 「みんながするように」F2

ページ——これまでに、「みんながしているから」という理由で、悪いことをしてみたいという誘惑に遭ったことがあるか、子供たちに尋ねてください。人に従う代わりに、助けを祈り求める、親に話す、正しい人の側に立つ、などの選択肢があることについて話してください。

## 「デビッドのいのり」F8ページ——

怖い思いをしたことがあるか、子供たちに尋ねてください。デビッド・O・マッケイ大管長の話をしてください。子供のころのマッケイ大管長と同じように、怖いときでも、祈れば必ず平安を得られることを教えてください。

### 今月号に採り上げられているテーマ

Fは「フレンド」の略	
愛	25, 26, 28
証	F6
イエス・キリスト	10, 25
一致	26, 28
祈り	16, 24, 38, F4, F8, F10
教えること	1
音楽	10
家族	2, 38, F4, F10, F12
家庭の夕べ	1
家庭訪問	25
教会歴史	47
悔い改め	37, F4, F10
結婚	2
自制	25, 37
指導力	28, 47
初等協会	F4
神権	2
信仰	42, F4, F10
聖餐会	10
聖約	2, 26, 28
聖霊	32, 38, F8, F12, F14
デート	44
伝道活動	8, 15, 32, 44
標準	34, 44, F2
扶助協会	26, 28
ホームティーチング	7
奉仕	38
守り	F4, F8, F14
模範	8, 34
モルモン書	47
勇気	F2, F8, F12
友情	8
赦し	38, F4, F10
親の務め	2
若い女性	26, 28, 34



# 父親，母親， 結婚

第二副管長

ジェームズ・E・ファウスト

**近**年，社会は病にむしばまれてどの家族も逃れられない状況にあります。それは家庭の崩壊という病であり，緊急に治療する必要があります。わたしの語ることでだれも傷つけたくはありません。わたしは，女性は神の造られた最高の創造物であると心から確信しています。またこの世において母性に勝る徳はないと信じています。子供たちにとって母親の影響力は計り知れないものがあります。独りで子供を育てている人のほとんどが母親ですが，特に大いなる働きをしています。

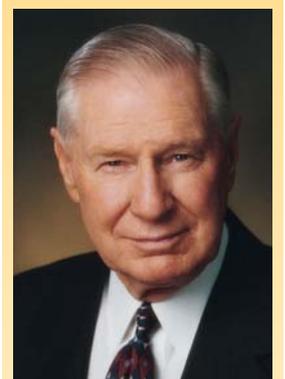
あまりにも多くの夫や父親が，本来は庇護すべき妻や子供たちを虐待しています。しかし近年の社会学的研究により，子供を大事にする父親は，息子，娘を問わず子供の一生に非常に重要な影響を及ぼすことが再びはっきりと認識されています。過去20年間，多くの家庭では家族のきずなを保とうと懸命になってきました。そして次のような大変な事実が社会学的研究により明らかにされています。すなわち，合衆国での犯罪や行動障害の多くは，父親が子供たちを放棄した家庭から起こっており，多くの都市が抱える子供の貧困，犯罪，麻薬の

乱用，家庭の崩壊といった問題は，父親が父親としての役目を果たしていないことに起因しているのです。このように社会学的に見て，父親はいなくてもかまわない存在などでは決してありません。

父親は，物質的および霊的な第一の養い手となるために最善の努力をする必要があります。わたしがはっきりとこう言うのは，この義務は夫に与えられたものであると，主が啓示しておられるからです。「女たちは夫が取り去られるまで，夫に扶養を要求する権利がある」<sup>1</sup> また「すべての子供たちは成人になるまで，その親に扶養を求める権利がある」<sup>2</sup> とあります。それに加えて子供たちの心の平安は「〔父親〕の信仰と聖約によって」もたらされなければなりません。<sup>3</sup> 幼い子供たちに関して主は「大いなることが彼らの父親に求められる」と断言しておられます。<sup>4</sup>

## 補い合う役割

親のどちらがより重要かを議論することは無意味なことです。新生児や幼年期の子供に対する母親の影響力が何にも勝っていることはだれもが知っており，子供が成長するにつれ，



**教会員は，  
崩壊しつつある  
家族生活を救う  
最も効果的な治療法を  
知っていると思います。  
それは，男性と女性，  
そして子供たちが，  
家庭での父親と母親の  
神聖な役割を尊び，  
敬うことです。**

父親の影響力は増していきます。しかし、子供が成長していく各時期にあってどちらの親も不可欠です。父親も母親も子供たちに対して、それぞれ本質的に異なった役割を果たします。両者とも子供を養育する能力を備えています、その方法は異なるのです。母親は、子供たちが現在から将来にわたって家庭内で生活できるよう備えるうえで中心的な役割を果たすと思われまゝ。一方、父親は、子供たちが家庭以外の社会へ適応できるように備えるすばらしい力があるようです。

ある学者は次のように述べています。「研究により、父親もまた、子供の〔自尊心〕を築くうえで特別な役割を果たすことが明らかにされている。また、仕組みは解明されていないが、子供の自制心を培ううえでも父親は重要である。」さらに、こう続けています。「調査によれば、父親は子供が男性、または女性としての自我を形成するうえで非常に重要であることも分かった。興味深いことに、男の子にも女の子にも顕著に見られるのは、父親とのかかわり合いにより、男性、または女性としての自覚が促され、その性格が形成されることである。父親が家庭の中での役割をよく果たしている場合、息子はより男らしくなり、娘はより女らしくなるということが立証されている。」<sup>5</sup>

夫婦関係がどのような状態にあらうとも、両親は自分たちの違いをひとまず置いて、子供たちの人生に義にかなった影響を与えるよう互いに励まし合う義務を負っています。

神によって、また法的権限によって付与されているすべての権利と祝福を女性に与えるなら、神のもう一つの偉大な創造物である男性の価値を低めてしまうことになるのでしょうか。1872年にこのテーマに関する考えを述べた人がいます。

「女性の地位について、今日、多くの問いかけがなされており、社会的にも政治的にも、世の注目を集めています。女性には、男性の勝手な思いつきや気まぐれ、あるいは男性が一方的に決めつけた善悪の基準以外のものを享受する資格はないと言う人々がいます。彼らは、女性が男性と同等の権利を持つことに対して論理的には反論できないため、非難したり嘲笑したりするのは、自分で変えることのできない正しい原則に逆らう者が、常に

取ってきた逃げ道です。その一方で、……女性の地位を認めるべきだと言うにとどまらず、極端な論理に浸り切って女性を男性と争わせ、女性は男性と別個の相対する存在であるとし、……完全に自立しなければならないと教える人もいます。このような人々は、男性の特性の中で好ましくないものを女性に取り入れさせようとします。このような特性は男性が改善し、なくしていくべきものであって、女性が模倣するようなことではありません。以上のような人々は、両極端な二つの例であって、男女双方にとって適切な態度や行動はその中間にあるのです。」<sup>6</sup>



**親のどちらがより重要かを議論することは無意味なことです。新生児や幼年期の子供に対する母親の影響力が何にも勝っていることは、だれもが知っており、子供が成長するにつれ、父親の影響力は増していきます。**

### 神権の行使

神はその大いなる知恵をもって、この世で最も大切な組織である家族に、よりどころとなる権能を付与されました。世の多くの人々は、わたしたちが信じるこれらのことを理解していません。このよりどころとなる権能は神権と呼ばれます。神権は神のすべての子供たちを祝福するためにふさわしい人に授けられています。すべての人は、男女の別なくこの神権を通して、神の召された僕の手により神の祝福を受けるのです。教会にあっては、ホームティーチャー、定員会会長、監督と支部長、父親、また神の王国の業に携わるすべての義にかなった兄弟たちを通して、全教会員がこの神権の権能の祝福を受けています。神権は義にかなった力、人に感化を与える力であり、これによって、少年たちは若いときから生涯にわたって、貞節を重んずべきこと、正直、勤勉であるべきこと、女性に対する敬意を深め、女性を守るべきことを教えられます。神権は自制する力を与えます。少女たちは、神権の祝福の力を通して自分たちの正しい願いを達成できると教えられています。

神権を尊ぶとは、キリストの模範に従うことであり、父親としての主の模範に倣うことです。それは、自分の分身であるわが子を常に思いやり、世話をするということです。神権を持つ人は、妻であり子供たちの母親でもある愛する伴侶を永遠に大切に、絶対的な忠誠を尽くさなければなりません。また、生涯にわたって子供や孫たちを世話し、思いやる必要があります。ダビデが自分に反抗していた息子を思って言った言葉は、聖典の中で最も心打たれる言葉の一つです。「わ



が子アブサロムよ。わが子、わが子アブサロムよ。ああ、わたしが代って死ねばよかったのに。アブサロム、わが子よ、わが子よ。』<sup>7</sup>

教会員である夫や父親の皆さんに心からお願ひします。奥さんにとってかけがえのない人物になってください。姉妹の皆さん、ご主人に対し忍耐強くあり、愛と理解を示してください。結婚しようとする人々は、結婚生活を人生で何よりも優先していけるよう、十分な備えをしてください。

伴侶はんりよに向かって「わたしにはあなたは必要ありません」と言うことは、幸せな結婚に欠かせない思いやりを打ち砕いてしまいます。夫婦は一体となるべきであるという救い主の勧告は昔も今も変わらないからです。『「それゆえに、人は父母を離れ、その妻と結ばれ、ふたりの者は一体となるべきである。』彼らはもはや、ふたりではなく一体である。』<sup>8</sup>

### 心において一つとなる

心と思いにおいて一つとなるのは、物理的に一つとなるよりもはるかに難しいことです。

この心と思いにおいて一つとなることは、「感謝しているよ」とか「君のことを誇りに思うよ」といった心からの言葉に表れるものです。家庭でのこのような一致は、赦し、忘れることから生まれ、成熟した夫婦関係に欠かせません。ある人は「結婚前は目を大きく開き、結婚後は半分閉じよ」<sup>9</sup>と言っています。真の慈愛は結婚生活の中でこそ生まれてくるべきものです。なぜならそれは、日々、築き上げていくべききずなだからです。

夫婦のどちらか一方が伴侶をないがしろにしているながら完全にな一つになるなどということがあり得るでしょうか。子供たちの面前で、伴侶の持つ神聖な役割をけなすようなことがあれば、それはとりもなおさず、息子、娘たちに芽生えてきた男らしさや女らしさをもないがしろにすることになります。夫婦の間には常に意見の相違があるものだと思いますが、それは夫婦の間だけにとどめておくべきものです。

確かに、失敗に終わってしまう結婚もあります。離婚には必ず心の痛みが伴うものですから、そのような状況にある人々の苦しみを察し

**神** 権は  
神のすべての  
子供たちを  
祝福するために  
ふさわしい人に  
授けられています。  
すべての人は、  
男女の別なく  
この神権を通して、  
神の召された  
僕の手により  
神の祝福を  
受けるのです。



写真／ロン・ウエイマン

**父** 親、母親、  
そして子供の間  
の家族関係は  
この世で最も古く、最も  
永続する結びつきです。  
それは地域や文化が  
大きく異なっても  
存続してきました。  
これは、男女の結婚が  
自然なものであり、  
また神により定められた  
ものだからです。

ます。しかしながら、夫婦はどんなことがあっても、聖約を破らないようにしなければなりません。結婚式に伴って男性と女性の間で交わされる約束は、神との聖約と同じくらい重要なものであると、わたしは考えています。父親、母親、そして子供の中の家族関係はこの世で最も古く、最も永続する結びつきです。それは地域や文化が大きく異なっても存続してきました。これは、男女の結婚が自然なものであり、また神により定められたものだからです。結婚は道徳的要請です。神殿で執行される結婚は、永遠のきずなをもたらしものであり、わたしたちの結ぶ最も神聖な聖約となります。エリヤを通して神から授けられた結び固めの権能により、結婚の聖約は神との聖約となるのです。

わたしはこれまでの人生で人が抱える多くの問題に携わりながら、聖約を破るのに「正当な理由」になり得るものは何かと考えてきました。しかし、わたしにはその答えを出す知恵も権利もないことを伝えておきます。それは当事者である夫婦だけが決められることなのです。彼らは、聖約を遵守しなかった場合の必然的

結果として生じる責任を負わねばなりません。わたしの考えでは、人間としての品位が損なわれるような関係が続き、まったく望みのない状態を除いて、「正当な理由」はあり得ないと思います。

それと同時に、神聖な結婚の聖約を破る「正当でない理由」について強く感じていることがあります。「精神的苦痛」や「性格の不一致」「心が離れていった」「愛が冷めた」などは、明らかに正当な理由ではありません。子供がいればなおさらのことです。これについてパウロは神の不変の勧告をこう記しています。

「夫たる者よ。キリストが教会を愛してそのためにご自身をささげられたように、妻を愛しなさい。」<sup>10</sup>

「そうすれば、彼女たちは、若い女たちに、夫を愛し、子供を愛し、慎み深く……あるように教える〔ようになる。〕」<sup>11</sup>

### 最も効果的な治療法

教会員は、崩壊しつつある家族生活を救う最も効果的な治療法を知っていると思います。

それは、男性と女性、そして子供たちが、家庭での父親と母親の神聖な役割を尊び、敬うことです。そうするとき、家庭で見いだされる義によって、すべての教会員の心に互いへの尊敬と感謝の念がはぐまれるでしょう。こうして、マラキによって告げられ、エリヤによって回復された偉大な結び固めの鍵が効力を表し、「〔父〕の心を子〔供〕に、子〔供〕の心を〔父〕に向けさせ、全地がのろいをもって打たれることのないようにする」<sup>12</sup>のです。

ジョセフ・フィールディング・スミス大管長（1876－1972年）はエリヤの鍵について次のように語りました。「エリヤに授けられたこの結び固めの権能は、夫と妻、そして子供たちと両親とをこの世と永遠にわたって結びつける権能です。すべての福音の儀式にあってこれを効力あるものとする力です。……エリヤの使命は神の王国に混乱と無秩序というのろいを招かないように地上を訪れ、結び固めの権能を回復することでした。」<sup>13</sup> 混乱と無秩序は社会の至る所で見受けられますが、それによってわたしたちの家庭が崩壊するようなことがあってはなりません。

恐らくわたしたちは、エリヤによってもたらされた権能を、神聖な場所で執り行われる正式な儀式だけにかかわるものとして考えているのではないのでしょうか。しかし、これらの儀式はわたしたちの日々の生活の中に具体的な形となって表れてこそ、力を発揮し善を生み出すのです。マラキは、エリヤの権能は父と子の心を互いに向けさせると告げました。<sup>14</sup> 心は感情の中心であり、啓示が注がれる場所でもあります。このように、結び固めの権能は家族関係の中に表れ、人を養い育てる環境で培われた属性や徳、また愛に満ちた奉仕の中にその力を発揮するのです。これらはすべて家族を結ぶきずとなり、神権によって家族はさらに強められます。そしてわずかずつではあっても、確実に「神権の教義は天からの露のようにあなたの心〔、そしてあなたの家庭〕に滴る」でしょう。<sup>15</sup>

父親や夫が神権を尊び、妻や子供たちが神権を敬うことによってもたらされる神権の祝福こそ、現代社会をむしばむ病を確かに癒すものであることを証します。父親の皆さん、神権の召しを尊んで大いなるものとし、この神聖な力によって皆さんの家族を祝福してください。そして父なる神が約束された良き報いを味わってください。■

## 注

1. 教義と聖約83：2
2. 教義と聖約83：4
3. 教義と聖約84：99
4. 教義と聖約29：48
5. カール・ジンスマイスター “Fathers：Who Needs Them?”（家族調査評議会での講演、1992年6月19日）
6. “Woman’s Status,” *Woman’s Exponent*, 1872年7月15日付, 29
7. サムエル下18：33
8. マタイ19：5－6
9. マドレーヌ・スキュデリ, *The International Dictionary of Thoughts* (1969年), ジョン・P・ブラッドリーほか共編, 472
10. エペソ5：25
11. テトス2：4
12. 教義と聖約110：15。マラキ4：6も参照
13. *Elijah the Prophet and His Mission* (1957年), 5
14. マラキ4：5－6参照
15. 教義と聖約121：45

## ホームティーチャーへの提案

よく祈って準備した後、あなたが教える人々の参加を促すような方法を用いて、このメッセージを分かち合ってください。幾つかの例を以下に紹介します。

1. 「家族——世界への宣言」の以下の文で始まる段落を読む。「夫婦は、互いに愛と関心を示し合うとともに、子供たちに対しても愛と関心を示すという厳粛な責任を負っています。」（『聖徒の道』1998年10月号, 24）この責任を家族全員や神の子供たちすべてがともに果たしていくにはどうすればよいか尋ねる。

2. ファウスト副管長のメッセージにある「心において一つとなる」という項目の第3段落を読む。聖約とはどのようなものか、また、神殿での聖約はどなたと交わすものか、家族に尋ねる。永遠の結婚聖約の神聖さについて強調する。

3. 「教会員は、崩壊しつつある家族生活を救う最も効果的な治療法を知っている」というファウスト副管長の言葉を読む。この治療法としてどのようなものが考えられるか家族に挙げてもらう。それから「最も効果的な治療法」の項でファウスト副管長が挙げている事柄を読む。

# 壁の額

ジェレミー・ロバートソン

「賢明に友達を選びなさい。友達には感化されやすいものだから。」これまで何年もの間毎日この額の言葉を見てきましたが、深く考えることはほとんどありませんでした。わたしにとっては、家中の壁の要所要所に掛けられている名言や引用文の一つにすぎなかったのです。しかしこの額はキッチンテーブルのすぐ向こうの壁といういちばん目立つ場所に掛けていました。

友達が来ると、皆自然と台所に集まりました。デートや夜遅く見る映画、手早く済ませるランチなど、ほとんどいつも台所が中心でした。母はそれを分かっていて、ちゃんと計算していたのです。母のこのもくろみが見事成功したのに気づいたのは、何年もたってからのことでした。

わたしは教会員の友達に多く恵まれていました。教会や学校へ一緒に通い、そのほとんどは同じ時期に伝道に出ました。しかし、中に一人だけ、みんなとはちょっと違う友達がありました。両親は離婚していて、父親と母親それぞれの家や友達の家の間を行ったり来たりしていました。そのために、彼はいつも幾らか孤立しており、孤独感を味わっていたのではないかと思います。髪は長く、いつもイヤリングを一つは着けていました。しかし、そんなことに関係なくわたしたちは彼を愛し、仲間だと感じていました。

高校時代、彼が変貌を遂げるのをわたしたちは目の当たりにしました。それは素晴らしいことでした。そして19歳の誕生日が過ぎて間もなく、彼は必要な書類を提出し、伝道の召しを受けました。2、3か月後、わたしたちはこれがどんなに大きな意味を持つ出来事なのかを知ったのです。

それを実感したのは1月のある寒い日曜日のことでした。

毎日目に  
留まる場所に  
掛けられていた  
その額の言葉は、  
一人の人生を  
永遠に  
変えました。

わたしは友達とこの若者の話を聞くために聖餐会せいさんに出席しました。わたしは音楽を演奏するように頼まれていたので壇上に座っていました。聴衆を見回すと、家族も友達も全員が出席していました。すばらしい光景でした。説教壇に近づく彼の目は少し潤んでいました。

彼は次のような質問で話を始めました。「わたしがなぜここにいるか皆さんお分かりでしょうか。その答えは非常に簡単です。わたしがここにいるのは、ある友達の家のテーブルで何度も食事をごちそうになったからです。そのテーブルの向こうの壁には額が飾ってあり、こう書かれて

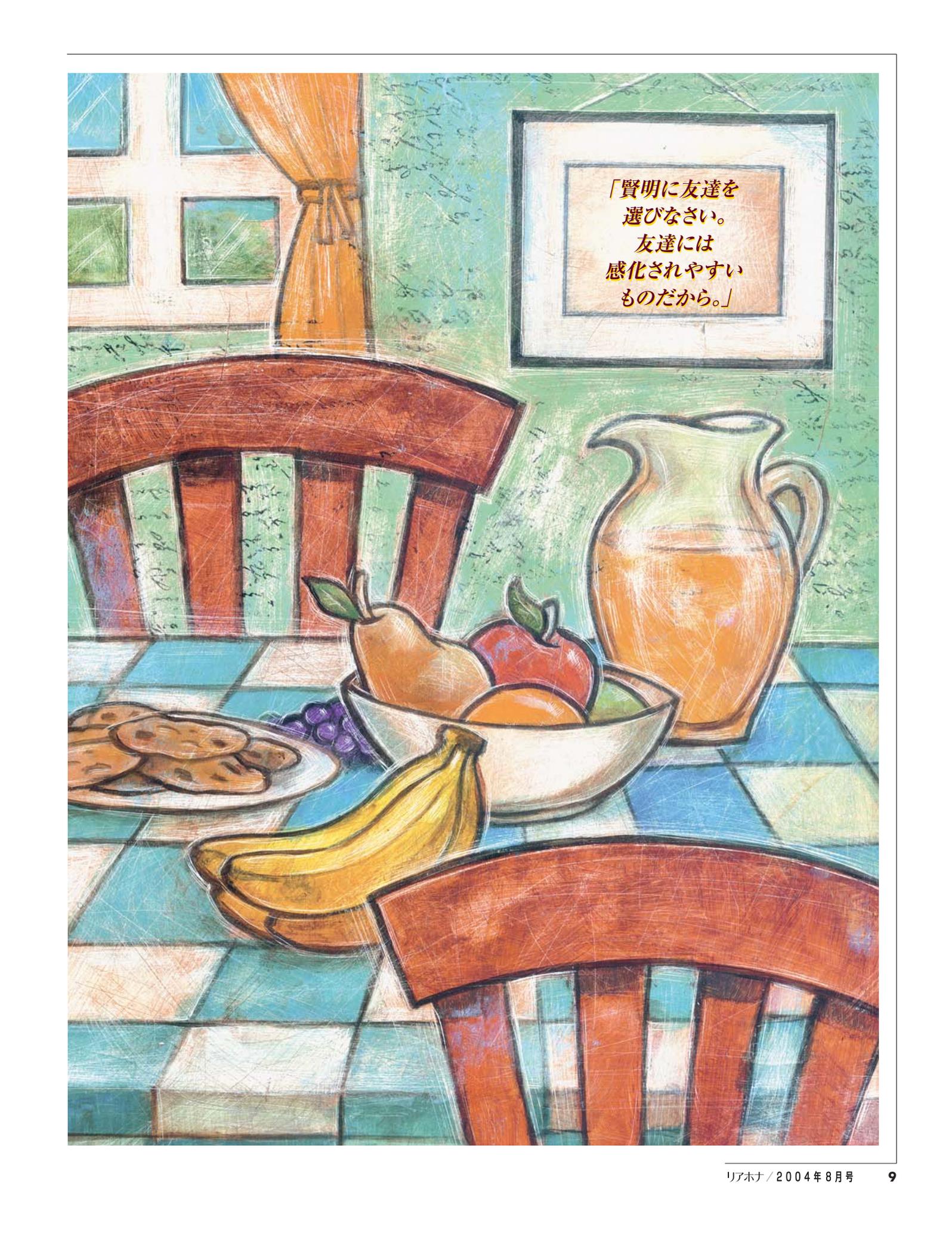
いたのです。『賢明に友達を選びなさい。友達には感化されやすいものだから。』友達の影響と愛がなかったら、今日のわたしはありません。そのことを彼らに伝えたいと思います。」

聴衆を見下ろすと、母が目に涙を浮かべて、ほほえんでいるのが見えました。

その日以来、自分は友達からどんな感化を受けたらうかと考えるようになりました。友達の模範がなかったなら、わたしは伝道に出なかったかもしれません。あのようにすばらしい人たちから力と愛を受けなかったなら、どんな人間になっていたらうかと思ひます。わたしは友達に対して、そして天の御父に対してこれから先、永遠に感謝の気持ちを持ち続けることでしょう。

あの日壇上から語られたメッセージは、これからずっと人々の心に残ることでしょう。そして、あの額は今もキッチンテーブルの向こうの壁に掛けています。■

ジェレミー・ロバートソンは、ユタ州プロボ・グランドビューステーキ、グランドビュー第19ワードの会員です。



「賢明に友達を  
選びなさい。  
友達には  
感化されやすい  
ものだから。」



# せい さい さん 聖餐会での 礼拝

聖餐会をふさわしく計画・司会すれば、出席者は主と主の贖いについてさらによく思い起こすことができます。

十二使徒定員会  
ラッセル・M・ネルソン

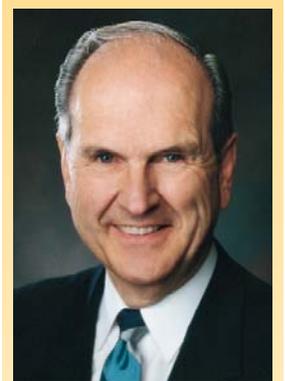
**監**督会与支部長会には委任できる責任がたくさんあります。しかし、聖餐会に関する責任は委任できません。通常、監督会や支部長会が聖餐会を管理します。したがって集会の雰囲気と内容の両方に責任を負っています。ですから、これから話す聖餐会についての教えは、毎週聖餐会に出席している教会の会員にとっても興味深いものとなるでしょうが、特に監督、支部長および副監督、副支部長の皆さんにとって関心の高い事柄となるでしょう。

## 教義的基礎

聖餐会是一个のワードまたは支部の集会であり、わたしたちは教会の基本単位である家

族として出席します。家族や会員たちは、聖餐会が始まる前に余裕をもって来る必要があります。わたしたちは、主から命じられたとおりに、聖餐を受け、聖約を新たにするために出席します。

主はわたしたちに贖罪を思い起こさせるために聖餐を定められました。特別に備えられた最後の過越の晩餐が終わった後、イエスはパンを取って、祝福して裂き、使徒たちに与えて言われました。「取って食べよ。」(マタイ26:26)「これは、あなたがたのために与えるわたしのからだである。わたしを記念するため、このように行いなさい。」(ルカ22:19)それから、イエスは杯を取って、感謝の祝福をささげ、集まっている人々にそれを渡して言われました。「この杯は、……わたしの血で立てられる新しい契約である。」(ルカ22:20)「罪のゆるしを得させるように……流す……血である。」(マタイ26:28)『……わたしの記念として、このように行いなさい。』だから、あなたがたは、このパンを食し、この杯を飲むごとに、それによって……主の死を告げ知らせるのである。」(1コリント11:25-26)このようにして、主は聖餐と間



心から、わたしは、  
聖餐会と  
それがわたしの人生にもたらしたすべての事柄について主に感謝しています。聖餐会は繰り返し信仰を活気づけ、毎週聖約を新たにさせてくれました。

近に迫った十字架による処刑とを結びつけられたのです。

神は、「人の不死不滅と永遠の命をもたらすこと、これがわたしの業であり、わたしの栄光である」と宣言されました(モーセ1:39)。その後、神の御子が御父の御心を成し遂げるために自発的に御自分の命を捨てられました。こうして不死不滅が現実のものとなり、地上に生を得るすべての人にとって永遠の命が可能なものとなりました。

わたしたちはきわめて個人的な方法で主の贖罪を記念します。聖餐会には打ち砕かれた心と悔いる霊を抱いて来ます。これは安息日を守るうえで最も重要な点です(教義と聖約59:8-13参照)。



聖餐の祈りは主によって啓示されました。この祈りには聖約と約束が含まれています(教義と聖約20:77, 79参照)。わたしたちはイエス・キリストの御名を受け、戒めを守ると聖約します。御子の体の記念に、裂いたパンを頂きます。わたしたちのために流された御子の血の記念に水を飲みます。そして、いつも御子を覚えることを証明します。約束は、いつも御子の御霊を受けるといことです。何という祝福でしょう。

### 聖餐会の計画

監督会と支部長会の兄弟たちは、これらの教義を心に留め、主と主の贖罪、模範、そして福音の教義に焦点が当たるよう、よく考えて聖餐会を計画する必要があります。

話の依頼は事前に余裕をもって行い、割り当てられた

テーマと指定の時間をはっきりと告げ、助けを申し出ます。祈りを依頼する人には、あまり頼まれたことのない会員を入れるとよいでしょう。同じ集会で夫婦に祈りを頼むのは避けてください。このようなことをすると、故意でなくとも独身の人々に疎外感を与えてしまうこととなります。また、祈りは説教ではないということ覚えておいてください。

伝道に出かける宣教師に聖餐会で話す機会を与えるとよいでしょう。その家族や友人には話を依頼しません。伝道に出かける宣教師が同じ集会で二人以上話すこともできます。誉れある奉仕を終えた帰還宣教師に聖餐会で話すよう依頼し、霊的な経験を分かち合っ<sup>あかし</sup>て証を述べる時間を与えるようにします。

聖餐会では、割り当てられた福音のテーマで短い話をする機会を青少年に与えます。時には、高等評議員がステーク会長から割り当てられて話すこともあります。

歓迎係や案内係として奉仕する会員を召すこともできます。彼らは礼拝する人々を迎え、くつろいだ気持ちで着席させ、また特別な必要がある人々のために後方の席や通路側の席を少し確保します。

ビデオカセットやトランスペアレンシーなどの視聴覚資料は、聖餐会で使用してはなりません。

時には、病気のために出席できない会員がいるかもしれません。そのような場合、監督や支部長は、外出できない人々のところへ行って聖餐を執行するよう神権者に割り当てることができます。

一般的な聖餐会では次のことが行われます。

- 前奏曲
- 歓迎と、管理者ならびに割り当てのある場合は高等評議員の代表の発表
- 開会の賛美歌と祈り
- 以下のようなワードや支部の業務
  - 役員と教師の解任と支持
  - 初等協会を卒業する子供たちの認証、伝道やその他の務めに召された会員の発表、若い男性と若い女性の達成賞の発表
  - アロン神権を受ける、あるいは教師、祭司に昇進す

**わたしたちは皆、  
恐れを忘れ、  
祈りの気持ちで  
創造主を賛美する  
機会として歌う  
必要があります。**

る兄弟たちの名前や、ワードや支部の新しい会員の名前の提示

- 新会員の確認の儀式
- 聖餐の賛美歌と聖餐の執行
- 福音に関する話と任意に追加する音楽
- 閉会の賛美歌と祈り
- 後奏曲

解任または支持される人々を一人一人別個に提示する必要はありません。何人かを同時に提示できます。すなわち、まず、解任される人々、次いで神権に関して支持される人々、そして補助組織の召しに支持される人々です。

聖餐会は必ず定刻に始まり、定刻に終わるようにし、プログラムに多くを盛り込みすぎないようにします。聖餐会の前に祈り会を開く必要はありません。参加する人々は、集会が始まる少なくとも5分前には着席してください。そうすれば、礼拝の精神を味わうために霊的な備えができます。その静かな時間に前奏曲を小さく流します。開会前は会話や連絡の時間ではなく、指導者と会員が聖餐のために霊的に備える、祈りを込めた瞑想の時間なのです。

## 音楽

教会の賛美歌は礼拝行事の基本的な音楽であり、会衆で歌うための標準の曲です。ほかにも、前奏曲や後奏曲、聖歌隊の歌、特別な音楽として適切なものを選曲できます。開会と閉会の賛美歌は通常、全員で歌います。聖餐の賛美歌は必ず全員で歌います。

理想的には、教会の各ユニットに聖歌隊を設けて、定期的に歌ってもらいます。聖歌隊は生活に祝福をもたらします。ネルソン姉妹とわたしにとって、何年も前にミネソタ州ミネアポリスの小さな支部の聖歌隊に参加できたことは、良い思い出です。わたしたちやほかの人たちが歌うために前に出ると、席に残っている会員よりも聖歌隊の人数の方が多い状態でした。



ピアノやオルガン、あるいはこれに相等する電子楽器が教会の集会で使用する標準の楽器です。ほかの楽器を使用する場合は、集会の精神に調和した使い方をしなければなりません。ほとんどの金管楽器や打楽器など、音の大きな、あるいは礼拝の精神を損なう音を出す楽器は聖餐会にふさわしくありません。ピアノやオルガンがない場合や伴奏者がいない場合は、適切に録音したものを伴奏に使うことができます。

義人の歌は主への祈りです（教義と聖約25：12参照）。会員の中には、たぶん恐れからでしょうか、歌おうとしない人々がいるようです。わたしたちは皆、恐れを忘れ、祈りの気持ちで創造主を賛美する機会として歌う必要があります。聖餐会の音楽は人に聞かせるためではなく、礼拝のためにあるのです。神聖な音楽を歌う機会を逃さないでください。またそれを世俗的な音楽に代用させないでください。

**御**子の  
体の記念に、  
裂いた  
パンを頂きます。  
わたしたちのために  
流された御子の血の  
記念に水を飲みます。

## 聖餐会の司会

監督会と支部長会には、聖餐会を計画するだけでなく、司会する責任もあります。彼らは司会を敬虔な態度で務めます。会衆の中には、天から来るひそかな促しと交わりを求めて祈っている人もいます。敬虔な雰囲気を醸し出して、そうした人々が促しを受けるのを助けることができます。忘れないでください、敬虔さは啓示をもたらすのです。

集会の司会をする人は、心から歓迎の言葉を述べてから始めます。詳細な発表は別の時間に行う方がよいでしょう。わたしたちはキリストのもとに来るようにすべての人を招いているので、友人や隣人をいつでも歓迎しますが、彼らが聖餐を取ることは期待されていません。しかし、禁じられてはいません。友人たちが自分で決めます。初めて来た人々が、必要とされていることと、居心地よさを常に感じられるように願っています。罪がなく、主の贖罪の効力を受けている幼い子供たちも、将来聖約を交わす備えをするために聖餐を取ることができます。

集会は常に御霊に導かれるままに執り行わなければなりません（教義と聖約46：2参照）。時折何か予期しない事柄が起こり、管理役員は御霊に促されるままに、その事柄について説明や訂正を加えたいと思うかもしれません。それ以外の場合は、最終話者が話した後では決して言葉を加えてはなりません。

## 聖餐の執行

監督会と支部長会はワードや支部におけるアロン神権を管理します。定員会アドバイザーとともに細心の注意を払って、集会の始まる前に聖餐の準備が整い、また聖餐のパスの仕方がよく計画されているようにします。聖餐を執行する人々は身だしなみを最善の状態に整え、適切な服装でなければなりません。白いワイシャツは見た目によいだけでなく、白い衣服を着て行うバプテスマや神殿儀式など、神聖な儀式を自然と思い出させます。

聖餐の祈りは**明瞭**にささげなければなりません。なぜなら、祈る人はほかの人々が交わす聖約を代表して語っているからです。聖餐を祝福する特権を与えられた人々は、心を清く、汚れなく保つように期待されています。管理役員は聖餐を最初に受けます。

聖餐会で  
得られる  
霊的な豊かさ  
に関しては、  
教会の各会員に  
責任があります。

## 断食証会

断食証会は月に1度、通常は第1日曜日に開かれます。一般的に、幼児はその日に祝福を受けます。聖餐式の後、司会する兄弟が短く証を述べます。その後、救い主と救い主の教え、また回復について心に感じている証を短く述べるように会員たちに促します。

両親と教師は、証とは何か、また証を述べるのにふさわしいのはいつかを、子供たちに学ばせなければなりません。年少の子供たちは、断食証会で助けなしにふさわしい証を述べられる年齢になるまで、家庭や初等協会では証を分かち合うことを学ぶ必要があります。

## 個人としての参加

聖餐会で霊的にどれだけ豊かに得られるかは、教会の各会員に責任があります。それぞれが感謝の心をもって歌い、また祈りや証の最後に「アーメン」と声に出して言うようにすべきです。わたしたちは個人として、イエス・キリストの贖罪を深く考えます。また、ゲツセマネでの主の苦しみとカルバリにおける十字架の刑の意義について思い巡らします。このときに、それぞれが「自分を吟味し」（1コリント11：28）、主と交わした個人的な聖約を思い巡らすようにしなければなりません。このときに、神にかかわる神聖な事柄について瞑想します。

心から、わたしは、聖餐会とそれがわたしの人生にもたらしたすべての事柄について主に感謝しています。聖餐会は繰り返し信仰を活気づけ、毎週聖約を新たにさせてくれました。そして、ネルソン姉妹とともに栄えある福音の光の中で生活し、家族を育てる助けを得ました。■

2003年6月21日に開かれた世界指導者訓練集会における説教を基に編集



# 靈感による 伝道の 召し

リンカーン・ピメンテル・マーティンズ

**ブ**ラジル人であるわたしは、伝道の召しを受け取ったとき、任地がブラジルでも南アメリカでもなく、アメリカ合衆国のテキサス州ヒューストン南伝道部であることに驚きました。しかし間もなく、この驚きは深い感謝の念に変わりました。

最初の赴任先に到着して4日後、地元のワードの監督が同僚とわたしに、白血病で入院しているノエル・スティーブソン兄弟のお見舞いに一緒に行かないかと誘ってくれました。初対面のあいさつを交わすと、スティーブソン兄弟が突然ポルトガル語で話し出したのでびっくりしました。スティーブソン兄弟は1950年代にブラジルで伝道したと教えてくれました。赴任した都市を幾つか挙げてくれましたが、その中にパラナ州のポンタグロッサがありました。

わたしは少しためらいながらこう尋ねました。「ポンタグロッサにいらっしゃったとき、ラウル・ピメンテルを御存じでしたか。」

スティーブソン兄弟はうれしそうな様子でこう答えました。「もちろん知っていたとも。彼にバプテスマを施したのは、このわたしだからね。」

わたしはスティーブソン兄弟に、ラウル・ピメンテルは自分の祖父であることを説明しました。家族の中で最初に教会員になったのがその祖父なのです。わたしたちは抱き合い、涙を流しました。

それからさらに、現在84歳になった祖父が今でも教会に活

発に集っていることを伝えました。祖父の8人の子供も活発な会員で、結婚している子供は皆神殿で結婚し、5人は専任宣教師として奉仕しました。また、30人の孫も教会に活発に集っていると告げました。スティーブソン兄弟と話していると、主の御霊により喜びと感謝で胸が満たされました。

祖父は1958年に、二人のアメリカ人宣教師からバプテスマを受けました。そのうちの一人が亡くなったことは知りましたが、スティーブソン長老については何も分かりませんでした。ですから、自分にバプテスマを施してくれた宣教師に孫が出会ったと聞き、祖父の喜びは大変なものでした。

その後、祖父とスティーブソン兄弟は、毎週のように電子メールをやり取りしました。ところが突然、電子メールでのやり取りが終わってしまいました。1本の電話がわたしに、ノエル・スティーブソン兄弟が亡くなったことを教えてくれました。

悲しくはありましたが、それ以上に感謝の気持ちでいっぱいでした。家族に福音の祝福をもたらしてくれた人のもとに主がわたしを導いてくださったのですから。この経験により、わたしはより良い宣教師になることができました。また、伝道の召しは靈感によるものであるという証あかしを強めることができました。■

リンカーン・ピメンテル・マーティンズは、ブラジル・カンピーナス・カステロステーク、コスタ・エ・シルバワードの会員です。

# 祈りを改善する



十二使徒定員会  
ジョセフ・B・ワースリン

皆さんが祈りに費やす時間は、  
霊を豊かにし、高めるものとなっ  
ているでしょうか。改善する余地は  
ないでしょうか。

**今** この地上で生活している人は皆、  
かつて天で暮らしていました。天  
の御父とともに歩み、御父のこ  
とを知り、その声を聞き、御父を愛していたの  
です。わたしたちはこの世に来て成長し続け  
ることを切望しましたが、それに伴う別れを  
残念に思ったことでしょうか。目が幕で覆われ、  
天での鮮やかな記憶が現世において覆い隠さ  
れてしまうことを悲しく思ったに違いないの  
です。天の御父のそばにいたいとどれほど  
願ったことでしょうか。そして地上に行っても  
御父を求め、御父と親しく交わることを固く  
約束したことでしょうか。

御父は、祈りを通して御自身を求めるなら  
手を差し伸べようと約束されました。御父の  
約束が別離のつらさを和らげたことは疑いの  
ないことです。

今、わたしたちはこの世にいます。前世で  
の記憶は暗く、ぼんやりとしています。決し  
て忘れることなどできないと思っていた記憶

を忘れてしまっています。残念なことに、そ  
して悲しいことに、あれほど愛していた天の  
御父のことさえ、時々忘れてしまうのです。

皆さんの祈り、つまり、この死すべき状態  
から天の御父に近づこうとする努力が、効力  
を発揮しているかどうか考えたことはありま  
すか。天の御父をどれほど近く感じていま  
すか。祈りがこたえられていると感じていま  
すか。皆さんが祈りに費やす時間は、霊を豊  
かにし、高めるものとなっているでしょうか。  
改善する余地はないでしょうか。

## 祈りを意味あるものにする

祈りが十分に力を発揮できない理由は幾つ  
もあります。祈りは時に、機械的な紋切り型  
に陥ります。同じような言葉を何度も同じよ  
うに繰り返していると、祈りが意思の疎通と  
いうより暗唱になり、意味のないものになっ  
てしまいます。「くどくどと祈るな」と救い  
主が言われたのはこのことです（マタイ6：7  
参照）。このような祈りは聞き入れられるこ  
とがないと主はおっしゃいました。

愛する預言者ゴードン・B・ヒンクレー大  
管長は次のように言いました。

「わたしたちのほとんどの祈りには問題が  
あります。電話で食料品の注文をするような



救い主はこう  
おっしゃっています。  
「見よ、わたしは戸の外  
に立って、たたいている。  
だれでもわたしの声を  
聞いて戸をあけるなら、  
わたしは  
その中にはいって  
彼と食を共にし、  
彼もまたわたしと食を  
共にするであろう。」



ゴードン・B・ヒンクレー  
大管長は次のように  
言いました。  
「わたしたちの  
ほとんどの祈りには  
問題があります。  
電話で食料品の注文を  
するような祈りになって  
いるからです。

**注文が終われば即座に  
電話を切るように、  
祝福を願うとすぐに  
祈りを終えてしまいます。  
祈りの内容について、  
また、自分が  
求めることについて  
瞑想、熟考し、考える  
必要があります。  
人が人と語るように  
主と話をするのです。」**

祈りになっているからです。注文が終われば即座に電話を切るように、祝福を願うとすぐに祈りを終えてしまいます。祈りの内容について、また、自分が求めることについて<sup>めいそう</sup>瞑想、熟考し、考える必要があります。人が人と語るように主と話をするのです。』<sup>1</sup>

時々、同じ言葉で、同じような祈りをすることはありませんか。機械から次々と言葉を繰り出すような、決まり切った祈りをしたことはないでしょうか。自分の祈りに飽き飽きすることはありませんか。

思いを十分に込めないで祈るわたしたちに、天の御父は大きな関心を向けてくださるのでしょうか。祈りが機械的になっていると分かったときは、いったん祈りをやめて考えてください。ほんとうに感謝している事柄について、しばらく瞑想してください。感謝していることを探しましょう。華々しくすばらしいことである必要はありません。雨のにおい、

好きな食べ物の味、愛する人の声など、たわいのない、小さな事柄に対する感謝の気持ちを表すことも時には必要です。

感謝していることについて考えることは、傷薬と同じ効果があります。無私の心を抱かせ、苦痛や試練のことしか考えられないときに、わたしたちの気持ちを今住んでいるこの美しい世界へと向けさせてくれるのです。

ほんとうに必要としていることについて考えてください。目標、望み、夢を携えて行き、主にお見せするのです。天の御父はわたしたちがみもとに行き、御父の力を願うことを望んでおられます。どんな試練に遭っているのか説明してください。義にかなった願いを主に示してください。

日々の現実的な問題に重点を置いて祈ることができず、またそうすべきです。作物について祈るべきであるなら（アルマ34：24参照）、対応を迫られているほかの重要な課

題についても祈るべきではないでしょうか。

言葉巧みな祈りほど、効果が高いと思っている人がいます。多くの場合、そのような祈りは会衆の耳に対するほど、全知全能の神の耳には意味深く響いていません。皆さんは神と話をしたいのですか。それなら、謙虚に敬虔な態度で神に語りかけてください。言葉が洗練されているかどうかはあまり気にする必要がありません。そうではなく、言葉が心から出ているかどうかを気に留めてください。

### 信仰をもって祈る

多くの祈りにほとんど力がないもう一つの理由に、信仰が足りないことが挙げられます。だめと言われることを分かっているが親に何かを頼む子供のように、天の御父に祈ります。信仰がなくては、祈りはただの言葉です。信仰ある祈りは天の力とつながり、さらに大きな理解と希望、力をもたらすことができます。信仰によって世界が造られたのであれば、わたしたちも信仰によって義になれた望みを持ち、その答えを受けることができます。

信仰とは何でしょうか。信仰とは、天の意思と完全に一致するものに対する完全な信頼です。神を信頼し、わたしたちに求められていることをすべて行うなら、信仰を持つのです。

行いのない信仰は死んだものです。時々わたしたちは、とにかく祈りをささげれば天の御父がこたえてくださると思うことがあります。手を伸ばして天から祝福が落ちて来るのを待つだけの人に対しては、天の扉は固く閉ざされたままです。

行動によって信仰はその力を発揮します。自分の責任を果たさなければなりません。準備する必要があります。できることをすべて行わなければならないのです。努力することでわたしたちは祝福を受けます。

祈りは天の御父との間の個人的な事柄です。皆さんが自分のできることを果たしたかどうかは、御父と皆さんにだけ分かります。自分の最高の行いを周りの人と比べようとしないでください。天の御父から見れば、それは重要なことではありません。

### 繁栄という問題

恐らく、今日の教会が直面している大きな課題の一つは繁栄です。ブリガム・ヤング大管長（1801-1877年）はこう言いました。

「この人々についてわたしがいちばん心配していることは、彼らが裕福になり、神を忘れ……てしまうのではないかということです。……この聖徒たちは暴徒や強奪、貧困、そのほかあらゆる迫害によく耐え、しかも忠実でいられるでしょう。しかし、わたしがもっと恐れているのは、彼らが富には耐えられないということです。」<sup>2</sup>

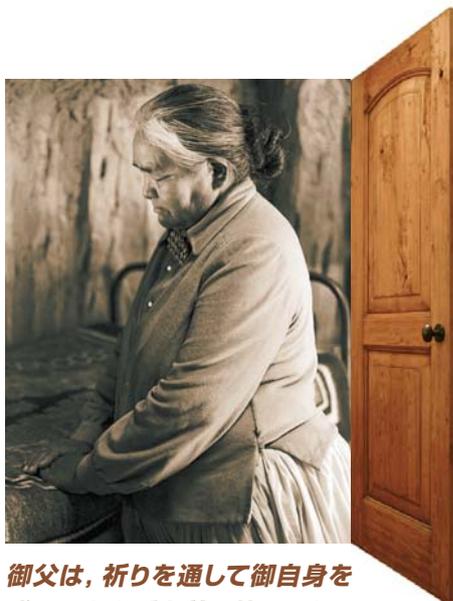
繁栄は、霊的なものに対する感覚を弱めます。自分には力があると誤解するのです。病気ときは医者に行けば治ります。空腹になれば、何か食べることができます。寒ければ自分で暖かくできます。端的に言うなら、人生のほとんどの問題は自分で解決できます。つまり、多くの場合自分の祈りに自らこたえることができるのです。

多くの人にとって日々の糧を手に入れることは比較的簡単です。それに惑わされて、「わたしの救い主はわたし自身だ」と思ってしまいます。高慢になり、愚かにも自分には天の御父などほとんど必要ないと感じるのです。宇宙を創造された力

や、自分が生きられるように命をささげてくださった御方のことにほんの少しでも思いを巡らすことはありません。

教義と聖約の中で、わたしたちはこの現代の偶像礼拝者に関して警告を受けています。「彼らは主の義を打ち立てるために主を求めようとせず、すべての人が自分の道を、自分の神の像を求めて歩む。その像は俗世の形であ[る。]」（教義と聖約1：16）

いつの日か、この世のものを礼拝する人々が自分の富に叫び求め、救ってくれるように嘆願する日が来るでしょう。その日彼らは、自分の神の冷たさを知り、たどって来た道が大変な間違いであったことを悟るのです。



**御父は、祈りを通して御自身を求めらるなら手を差し伸べようと約束されました。御父の約束が別離のつらさを和らげたことは疑いのないことです。**

## 慈愛の必要性

祈りにほとんど力がないもう一つの理由は、助けが必要な人々に手を差し伸べていないことにあります。モルモン書にはこう記されています。「もし乏しい人や着る物のない人を追い払ったり、病気の人や苦しんでいる人を見舞わなかったり、自分には持ち物がありながら、それを必要としている人々に分け与えなかったりするならば、あなたがたに言うが、もしあなたがたがこれらのことのどれも行いうことがなければ、見よ、あなたがたの祈りはむなしく、何の役にも立たない。」(アルマ34：28)

嘆き悲しんでいる人々を積極的に助けようとする気持ちは、どの時代でもキリストの弟子であることのしるしでした。実際、救い主は、人の救いはその人が周りの人々に対してどれだけ深い哀れみを示したかにかかっていると教えられました(マタイ25：31-46参照)。貧しい人や苦しんでいる人に背を向けるならば、天の御父はわたしたちに憐れみをかけられるでしょうか。助けの必要なときに天の御父がどのようにしてくださるかは、わたしたち自身が助けの必要な人にどう接しているかと深いかわりがあります。

## 祈りの法則

詩篇第37篇でダビデは、祈りと信仰を効力のあるものとする靈感に満ちた法則を明らかにしています。これは段階を追って進める法則で、信仰を強め、祈りを効果的なものとする際の指針となります。

「心を悩ますな。」これが第1のステップです(1節参照)。心を悩ますとは、何かについて心配する、あるいは気に病むという意味です。まず、心配することをやめるべきです。将来について心配すると、今を幸福に過ごすことができなくなります。義にかなった気遣いは適切な行動へと導いてくれますが、自分の力ではどうにもならないことについて心配していると、何も行動できなくなり、気持ちも沈んでいきます。

心配する代わりに最善を尽くすことに気持ちを集中し、問題は天の御父にゆだねましょう。あなたの心が御父とともにあるなら、御父はあなたが抱える問題や不安に対処してくれます。「心を悩ますな」ことを学ばなければなりません。

第2のステップは「主に信頼」を置くことです(3節参照)。なぜ主を信頼すべきなのでしょう。それは、主が愛に満ち、完全な知恵を備えられたわたしたちの天の御父だからです。あらゆる良い賜物<sup>たまもの</sup>を下さる御方だからです。わたしたちを御存じで、わたしたちが幸せになり、成功し、御自分のもとへ戻ることを望んでおられるからです。神は天におられます。神は完全です。わたしたちを愛してくださっています。

愛する母が、わたしの身の安全のことでいつも天の御父を信頼していたことを思い出します。わたしはソルトレーク・シティーのイーストハイスクールでもユタ大学でもフットボールの選手としてプレーし、ポジションはそれぞれクォーターバックとランニングバックでした。その間、母がわたしの安全を祈り求めなかったことは一日としてなかったと思います。母は天の御父を信頼し、わたしが試合中に大けがをしなくて済むよう御父に求めました。こぶやあざは随分作りましたが、大きなけがは一度もありませんでした。

フットボールをししばらくやめると告げたとき、母はほっとしたことでしょう。わたしは愛する監督のマリオン・G・ロムニー兄弟と面接をし、専任宣教師として伝道に出たいと伝えました。しかし、心配から解

放されたそのわずかな時間も、わたしがドイツ-オーストリア伝道部に召されたことですぐに終わってしまったのです。ザルツブルクに着いた3か月後、伝道部の名称はスイス-オーストリア伝道部に変更されました。

それは1937年のことでした。ヒトラーがオーストリア併合をもくろんで国境に30万の兵を集結させていたちょうどそのとき、わたしはオーストリアのザルツブルクに着きました。

父と母は朝晩家族を集めてひざまずき、安全を祈ってくれました。その祈りの力を確かに感じました。わたしは天の御父が家族の祈りを聞いてくださると信じていました。そして御父が命を守ってくださると信仰をもって祈りました。



**天の御父は、わたしたちの行いが、わたしたちの言葉に対する生きた証<sup>あかし</sup>となることを期待しておられません。善を行うとき、主はその努力を祝福して下さいます。**



恐らく、  
今日の教会が  
直面している  
大きな課題の一つは  
繁栄です。

ブリガム・ヤング  
大管長はこう言いました。  
「この人々について  
わたしがいちばん心配  
していることは、彼らが  
この国で裕福になり、  
神を忘れてしまうのでは  
ないかということです。  
……この聖徒たちは  
暴徒や強奪、貧困、  
そのほかあらゆる迫害に  
対してよく耐え、しかも  
忠実でいられるでしょう。  
しかし、わたしがもっと  
恐れているのは、  
彼らが富に対しては  
耐えられない  
ということです。」

ヒトラーのオーストリア侵略まであと1か月というとき、わたしはスイスに転任しました。これは、わたしたちの祈りがこたえられたという証あかしです。

聖文にはこうあります。「心をつくして主に信頼せよ、自分の知識にたよってはならない。すべての道で主を認めよ、そうすれば、主はあなたの道をまっすぐにされる。」(箴言3:5-6)

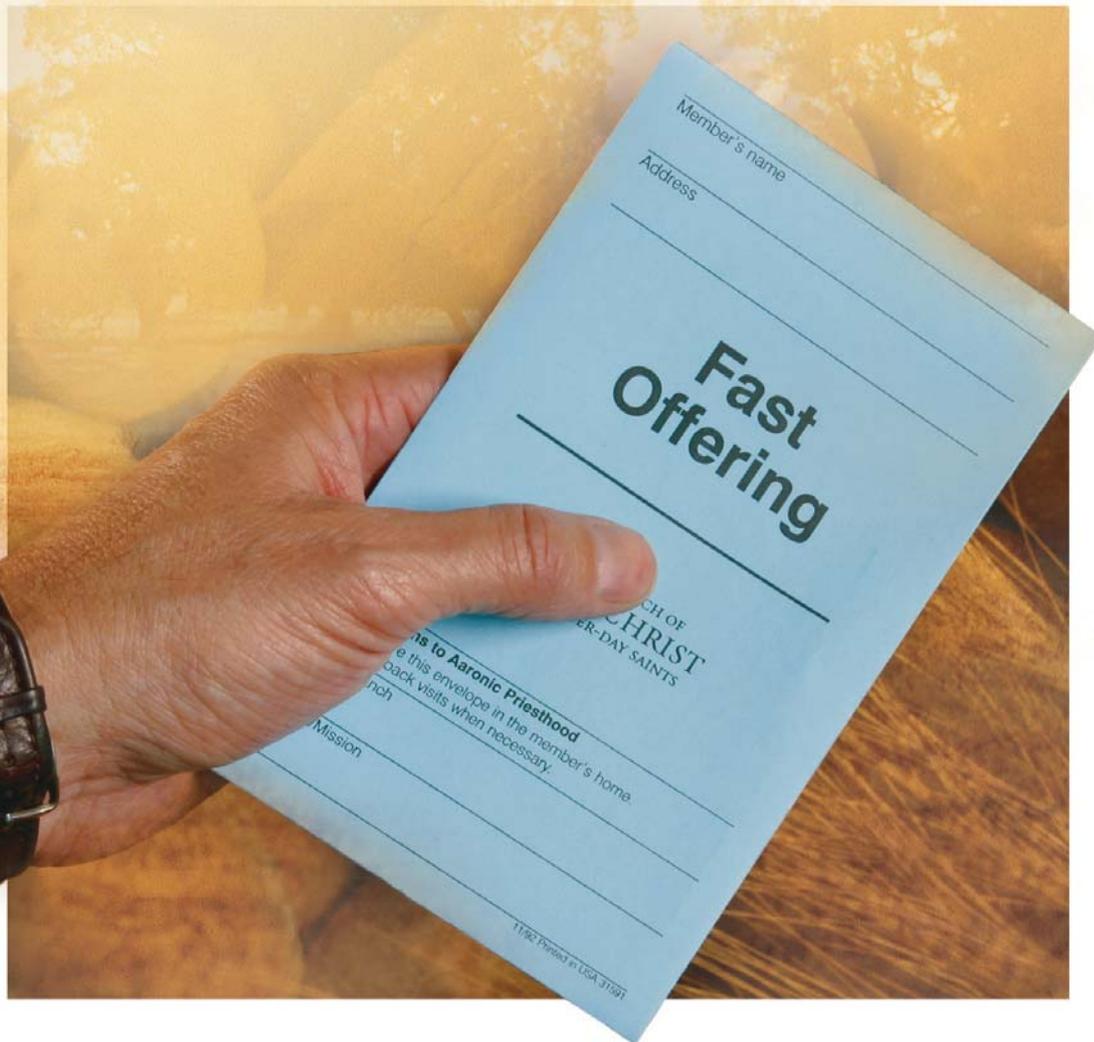
第3のステップは「善を行[う]」です(詩篇37:3参照)。わたしたちは善を行います。それはキリストに従う者だからです。わたしたちは善を行います。それはキリストの教会の会員だからです。わたしたちは善を行います。それは世の光として奉仕をするという神聖な聖約を結んでいるからです。天の御父は、わたしたちの行いが、自らの言葉に対する生きた証となることを期待しておられます。善を行うとき、主はその努力を祝福してください。

これは間違いを決して犯してはならないと言っているものではありません。「すべての人は罪を犯したため、神の栄光を受けられなくなって」いるからです(ローマ3:23)。主が求めておられるのは、謙遜な心で主を求め、罪を悔い改め、絶えず最善を尽くすことです。過ちを犯したなら、その過ちから学び、それを繰り返さないように努めなければなりません。そのようにしていくなら、さらにキリストに似た者となり、神の男性、女性としてもっと成長するのです。

自ら公言している信仰に反する行動を取るなら、祈りは弱くなります。善を行うとき、主はわたしたちを通して働かれ、わたしたちの努力を大いなるものにしてください。

第4のステップは、「主によって喜びをな[す]」ことです(詩篇37:4)。何とすばらしい教えでしょう。心配したり、祈りが聞き届けられないと不平を言ったりする代わりに、主によって喜ぶべきです。感謝しましょう。

貧しい人や苦しんでいる  
人に背を向けるならば、  
天の御父はわたしたちに  
憐れみをかけられる  
でしょうか。  
助けが必要なときに  
天の御父がどのように  
してくださるかは、  
わたしたち自身が  
助けが必要な人に  
どう接しているかと  
深いかわりがあり  
ます。



幸せでいましょう。皆さんが思い描いたとおり  
に、また時には思いも寄らない方法で、主  
は、主の時に、義にかなった望みをすべて実  
らせてくださいます。幸福と平安をもたらす  
何とすばらしい方法でしょうか。

第5のステップは「あなたの道を主にゆだね  
る」ことです（5節参照）。どのような問題  
を抱えていても、主の戒めを守る決意をして  
ください。兄弟の皆さん、自分に授けられて  
いる神権を尊んでください。姉妹の皆さん、  
光と真理の原則に忠実であってください。

第6のステップは「主の前にもだ[す]」、す  
なわち主を信じることです（7節参照）。時に、  
実行が最も難しいのは待つことです。主は御  
自身のスケジュールを持っておられ、そのた  
めにわたしたちが失望したとしても、主の時  
はいつも完全です。主にあって黙し、主を信  
じるなら、主は主の時間と方法で、わたした  
ちのために備えられた御心みこころを行うことがおで

きになるのです。

### 祈りは光をもたらす

謙遜な祈りをもって御父と親しく言葉を交  
わすとき、わたしたちの心には御霊みたまが静かに  
注がれます。主は言われました。「神から出  
ているものは光である。光を受け、神のうち  
にいつもいる者は、さらに光を受ける。そし  
て、その光はますます輝きを増してついには  
真昼となる。」（教義と聖約50：24）

この光を持たない人は、いつも疑いの気持  
ちと闘っています。その心にはほとんど光がな  
いため、神に関することを理解できません。  
反対に、心が光で満たされるならば、かつて  
は暗かった事柄をはっきりと理解するようにな  
ります。

皆さんは、聖なる森でジョセフ・スミスが  
暗闇くらやみと光を経験したことを思い出すでしょ  
う。ロレンツ・スノー大管長（1814-1901年）

は自分自身の経験をこう書き記しています。

「バプテスマを受けて2、3週間後のこと、……わたしはこの業が真実であることの知識を得ていないと考えるようになり、……不安を覚えました。本を傍らに置いて家を出ると、陰気な力とやるせない思いに圧倒されそうになりながら野原をさまよいました。何とも言い表し難い雲のような闇に取り巻かれていたのです。一日の終わりに宿舎から少し離れた森へ行って、一人で祈ることを常としていましたが、このときはそうする気にはなれませんでした。祈りの気持ちは去り、天は頭の上で閉じてしまったように思われたのです。個人の祈りをささげる時間になっていることに気がつくと、ようやく夕べの祈りをささげることになりました。ただ形式的にいつもの場所に行って、いつものようにひざまずきましたが、やはりいつものような感動は覚えませんでした。

祈ろうと努め、口を開きました。するとそのとき、頭上に絹の衣の擦れるような音が聞こえ、神の御霊がわたしの上に降り、頭のとっぺんから足のつま先まで全身くまなく神の御霊に満たされたのです。何という喜び、何という幸福を感じたことでしょうか。どのような言葉をもってしても、あの濃い雲のような知的、霊的な闇から、光と知識への変化を言い表すことはできません。このときわたしは知識を授けられました。神が生きておられ、イエス・キリストが神の御子であられること、そして聖なる神権の回復と完全な福音に関する完全な知識を得たのです。……

その夜床に就いたとき、再び同じ示現を受け、その後幾晩か同じことが続きました。そのすばらしい栄光に満ちた経験は、そのときから今日に至るまで、心にありありと残っており、思う度に全身に広がる御霊の力を感じます。そしてこれから後も感じ続けるでしょう。」<sup>3</sup>

兄弟姉妹の皆さん、打ち砕かれた心と悔いる霊を抱いて永遠の御父の前に来る人はだれでも、霊的な経験をすることができます。この死すべき世にあってなすべきことの一つは暗闇を追い払うことです。霊を聖い御霊の光で満たさなければなりません。

### すべての人に与えられる祝福

祈りを通してもたらされる豊かな祝福は、すべての人が手に入れられるものです。貧しい人も、裕福な人と同じように神と交わることができます。映画スターだからといって労働者より有利な立場にいるわけではありません。だれもが同じように天の王の御座に近づくことができるのです。

救い主はこうおっしゃっています。「見よ、わたしは戸の外

に立って、たたいている。だれでもわたしの声を聞いて戸をあけるなら、わたしはその中にはいって彼と食を共にし、彼もまたわたしと食を共にするであろう。」(黙示3:20)

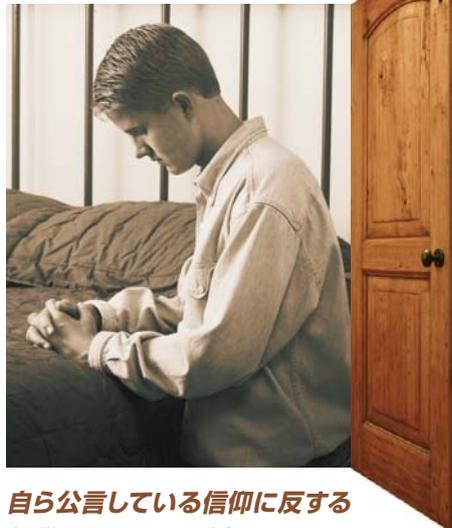
キリストの名によって天の御父に呼びかけるとき、わたしたちは天の窓を開きます。そして御父から真理と光、知識を受けることができます。

祈りは、天と永遠に関する事柄において、弟子となる第一歩を踏み出す戸口です。どのように祈るかを知っているかぎり、独りきりになることはありません。

わたしは、教会の会員が祈りの見地から自らの生活を見直すことを心から望んでいます。どのようなときにも天の御父に声を上げ、天の光で

霊を満たすことができるよう祈ります。■

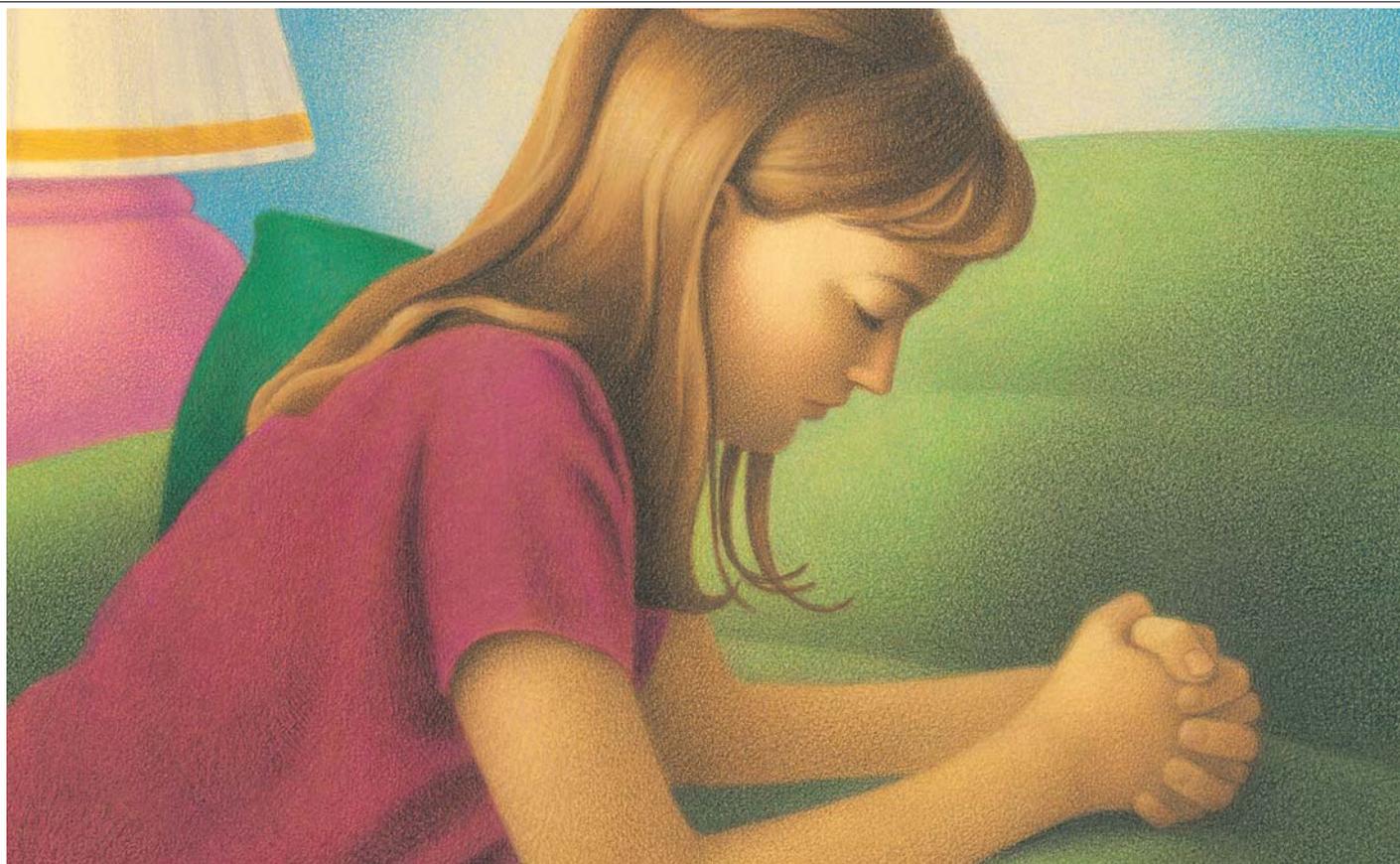
2003年1月21日に、ブリガム・ヤング大学プロボ校で行われたデイボーションから。



**自ら公言している信仰に反する行動を取るなら、祈りは弱くなります。善を行うとき、主はわたしたちを通して働かれ、わたしたちの努力を大いなるものにしてくださいます。**

#### 注

1. *Teachings of Gordon B. Hinckley* (1997年), 469
2. ジェームズ・S・ブラウン, *Life of a Pioneer* (1971年), 122-123で引用
3. エライザ・R・スノー・スミス, *Biography and Family Record of Lorenzo Snow* (1884年), 7-9で引用



## 死にたくなかったのです

マージド・A・カークパトリック

12歳のとき、母が癌で亡くなりました。母が死んでからというもの、わたしは自分も癌で死ぬのではないかと考えるようになりました。実際に癌だったわけではありませんが、真剣に悩んでいました。このことはだれにも話しませんでした。一人で重荷を背負い込み、とても苦しんでいたのです。

問題を抱えているときには主に祈るべきだと知っていました。毎晩個人の祈りをささげていましたが、ベッドのわきにひざまずいて祈るときにはいつも心の中で祈っていました。しかし、このときだけは声に出して祈る必要があると感じました。

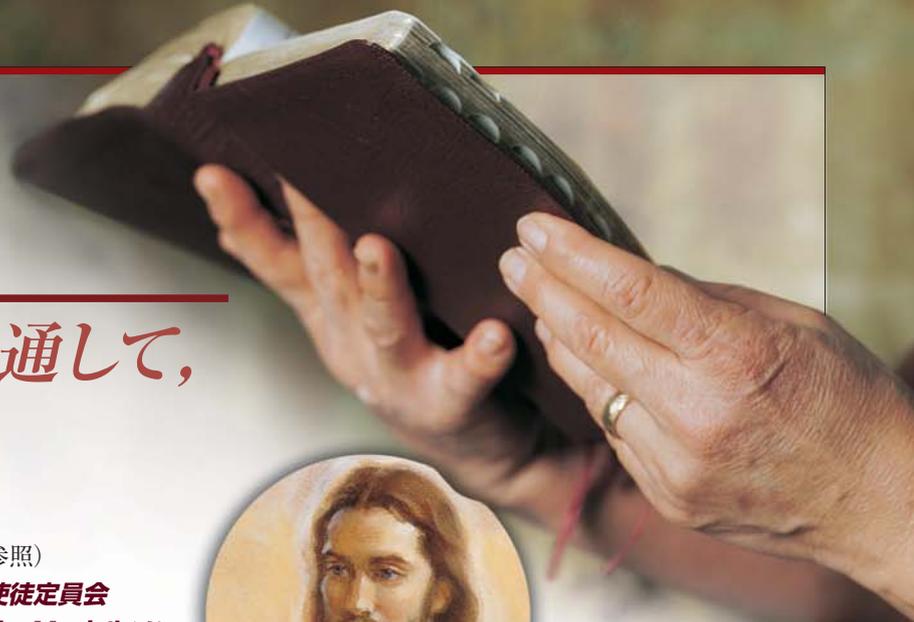
ところが、家ではそう簡単に一人になることができませんでした。きょうだい5人いて、寝室は妹と共有していたのです。今でも覚えています、ある日の午後、学校から帰ると家にはだれもいませんでした。わたしは居間に行くと、声を上げ、天の御父に心を注ぎ出しました。死にたくなかったのです。母のような苦しみを味わいたくはありませんでした。わたしは主に懇願しました。

祈り終わると、すぐに平安な力強い気持ちに包み込まれました。まるでだれかが優しく肩を抱いて、「大丈夫。あなたは大丈夫ですよ」と言っているかのようでした。

祈りがこたえられたのです。主の愛を強く感じ、自分は大丈夫だということが分かりました。肩にのしかかっていた計り知れない重荷は取り去られ、死についてはもう考えなくなっていました。以来、わたしは答えを求めて御父に祈るようになりました。このときほど早く答えが与えられたことはありませんが、祈りはこたえられることを知っています。たとえそれが、わたしの望む時期ではなく、主の時節にかなったものであってもです。

教義と聖約第112章10節にはこうあります。「あなたは謙遜でありなさい。そうすれば、主なるあなたの神は手を引いてあなたを導き、あなたの祈りに答えを与えるであらう。」■

マージド・A・カークパトリックは、ソルトレーク・ホラデーステーク、ホラデー第26ワードの会員です。



## 自己を治めることを通して、 主の愛を感じる

**以**下のメッセージから訪問先の姉妹たちの必要に合った聖句や教えを祈りの気持ちで選び、読んでください。自分の経験や証を伝え、あなたが教える人々も同様に分かち合うよう勧めてください。

**黙示3:21**——「打ち勝つ者には、わたしとともにわたしの座に着かせよう。それはちょうど、わたしが打ち勝ってわたしの父とともにその御座に着いたのと同様である。」(欽定訳黙示3:21から和訳)

**大管長 ゴードン・B・ヒンクレー**——「人が真理の偉大で力強い確信によって動かされるときには、自ら進んで自己を鍛錬します。……それは心の中に、神が生きておられ、自分が神の子供であり、永遠で無限の可能性を持っているという知識があるからです。」(「教会の真の強さ」『聖徒の道』1974年2月号、93参照)

**アルマ37:33**——「主イエス・キリストを信じる信仰をもって、悪魔のあらゆる誘惑に立ち向かうように教えなさい。」

**大管長 ハワード・W・ハンター (1907-1995年)**——「永遠の事柄に思いをはせるとき、わたしたちは……自らの生活に最も大きな幸福をもたらしてくれるものごとを、もっとはっきりと考えることができます。夜の暗闇が襲って来るとき、誘惑の嵐が吹きすさぶときにどう対処すべきかを、今、この朝の陽光の中で決めておこうではありませんか。」(「決意の時は今」『聖徒の道』1983年1月

号、103参照)

### 十二使徒定員会 ラッセル・M・ネルソン

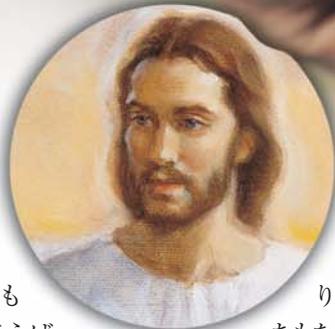
——「人生には、肉体があることから来る誘惑や試練、苦難が付き物です。でも祈りの気持ちで自制心を養えば、肉体の欲求を克服できるようになるでしょう。」(「自分自身を治める」『聖徒の道』1986年1月号、35参照)

**アルマ38:12**——「激情をすべて制し、愛で満たされるようにしなさい。」

**第二副管長 ジェームズ・E・ファウスト**——「罪、落胆、失敗、弱点のために自分が実際よりも小さく見えてしまうとき、わたしたちは神の恵みを通して、無条件の愛によって慰めを得ることができます。それは……人を高め人に恵みを与える愛であり、新たな始まりを支える愛です。」(「救い主との個人的な関係」『聖徒の道』1977年2月号、90参照)

### 中央扶助協会第一副会長 キャスリーン・H・ヒューズ

——「わたしの知っているある女性は、自分と家族を傷つけた人に対する怒りに苦しんでいました。子供たちには、恨んだり腹を立てたりしてはいけないうちで、自分の心の中ではそのような思いと闘っていました。何週間も天の御父に嘆願した後、ついに心の変化を感じました。彼女はこのように語りました。『わたしはほとんど絶えず祈っていましたが、そのようなある日、癒されたという感覚が体中に広がるのを感じました。そして、安心し、平安に満たされました。何が起ころうと、自分と家族は大丈夫だ



と感じました。怒りが去り、復讐したいという気持ちもなくなりました。』(『生ける水』による祝福)『リアホナ』2003年5月号、13)

### 大管長 デビッド・O・マッケイ (1873-1970年)

——「夜、横になって一日を振り返り、だれかを怒らせたり、傷つけたりしないように最善を尽くしたとはっきり認識できるとしたら、それはすばらしいことです。心の中にある不義な思いすべてを清めようと努力したのです。もしも心から努力したのであれば、祈るときに、主が努力を認めてくださっていると……感じるができるでしょう。自分が神の子供であると感じることができるでしょう。……あなたには強さ、すなわち悪に抵抗する感覚があるのです。」(Gospel Ideals[1954年]、502)

**ピリピ4:13**——「わたしを強くしてくださるかた、すなわちキリストによって、何事でもすることができるようになる。」(欽定訳ピリピ4:13から和訳)

● さらに救い主に近づくことによって、思いと言葉と行いを治めるうえでどのような助けが与えられるでしょうか。

● 聖句または末日の預言者たちの教えで、あなたが自己を治めるのに役立つものはありますか。あなたはこれまでどのようなことを変えたり、改善したりしてきましたか。■

# 次の一歩

扶助協会は、若い女性から移ってくる皆さんを両手を広げて歓迎します。  
そこでは、主に仕えることを通して、神の女性になることを学ぶのです。

シャンナ・バトラー  
教会機関誌

**若**い女性を卒業した後は、皆さんをすばらしい世界が待っています。成長し、天の御父に近づくことのできる場所です。奉仕を通して、もっと救い主のようになるために学ぶ場所です。理想の親友を作れる場所です。自分のほんとうの姉妹のような人を見つけられる場所です。

その場所とは、扶助協会です。中央扶助協会会長ボニー・D・パーキン姉妹は「扶助協会は、ただ単にレッスンを受ける場所ではありません」と言っています。そこは、どうしたら神の女性になれるかを学び続けるために通う場所です。

パーキン姉妹は、さらにこう言っています。「わたしたちの神の預言者は、教会の若い女性たちを愛しています。預言者は若い女性に多大な関心を寄せ、教会が若い女性の生活の一部になっていってほしいと強く願っています。皆さんが次の一歩を踏み出してその輪に加わるならば、扶助協会が皆さんの人生にとってとても有意義なものとなることを、預言者は知っています。」

確かに、若い女性から扶助協会に移ることは、少し怖いような気がするものです。でも、中央若い女性会長スーザン・W・タナー姉妹は「それは成長していくうえで単なる通過点にしかすぎません」と語っています。

タナー姉妹は18歳になったとき、扶助協会に入ることに、わくわくしていました。それでも、「自分がどちらの組織にも属してなく、中間地点にいるかのように感じました。それはきわめて普通の感情だと思います。わたしも最初は、場違いな所にいるような気がしていました。」

扶助協会に慣れ親しむには、扶助協会の姉妹たちと皆さん自身の双方からの努力が必要です。扶助協会は皆さんを歓迎してくれることでしょ。皆さんの方でも、扶助協会の姉妹たちを知り、愛するように努めることができます。タナー姉妹はこう言っています。「教会の中では年齢の壁は存在しません。わたしたちは皆、姉であり妹です。これから、姉妹たちとのきずなを築き始めればよいのです。」

姉妹たちとのきずなを築くには、何がいちばん大事でしょうか。タナー姉妹はこう話しています。「姉妹同士の真のきずなを築く秘訣は、聖約を守ることです。福音はわたしたちを一つにしてくれます。姉妹たちが、互いの違いに気づく以上に自分たちが一つであると感じてほしいと思います。」

バプテスマのときに交わした聖約を守ることは、人を強め、奉仕するという意味が含まれています。「重荷が軽くなるように、互いに重荷を負い合うことを望み」、「悲しむ者とともに悲しみ、慰めの要る者を慰めることを望む」ことです(モーサヤ18:8-10)。この聖約の実践を学ぶうえで、扶助協会以上に適している場所があるでしょうか。扶助協会は、神によって組織され、「愛はいつまでも絶えることがない」をモットーに掲げているのです。

扶助協会の姉妹になると、若い女性で得た知識がさらに増し加えられます。そして聖約を守る神の女性になるために、いっそう多くのことを学ぶでしょう。パーキン姉妹はこのように話しています。「扶助協会に活発に参加することは、末日聖徒イエス・キリスト教会の女性の務めです。」

皆さんが次の一歩を踏み出し、扶助協会の姉妹の輪に加わるなら、神の女性たちが両手を広げて皆さんを出迎え、受け





入れてくれ  
ていることに気  
づくでしょう(「扶助協会  
に歓迎する」28参照)。タナー姉妹はこう述べて  
います。「救い主は弟子たちをととも愛していま  
したが、ずっと一緒にはいられないことを御存じで  
した。しかし、弟子たちにこう約束をされました。

「わたしはあなたがたを捨てて、慰めのないまま  
にしてはおかない。」(欽定訳ヨハネ14:18から和  
訳)わたしは、わたしたち扶助協会の姉妹たちが  
どれほど若い女性である皆さんのことを愛して  
いるかについて、今思いをはせています。わた  
したちは皆さんを捨てて、慰めのないまま  
にしてはおきません。それに皆さんも、友達  
を残してくるわけではありません。次は  
皆さんが、皆さんを慕う友達を、両手を広げ  
て歓迎する番になるのです。」

パーキン姉妹はこのように付け加えています。  
「皆さんは、生活の中で主の愛を感じる  
とき、だれかに手を差し伸べるようになるでし  
ょう。そして、その輪はどんどん広がって、それが  
ずっと繰り返されていくのです。」

皆さんが聖約を守り続け、救い主の模範に従っ  
ていくなれば、扶助協会の姉妹たちの輪に、皆  
さんの信仰と美德を加えることができるでしょう。そ  
して「愛はいつまでも絶えることがない」というこ  
とを、身をもって証明するようになるでしょう。■



### 居場所を見いだす

「若い女性の生活に  
とって、青少年から成人  
女性へ移行する時期は  
きわめて大切です。わた  
したちは、すべての若い  
女性がこの移行期をうまく  
乗り切るとともに、将来、  
信仰篤い女性として、  
妻として、また母親として  
の責任や、教会で奉仕す  
る機会のために準備する  
よう願っています。」

ゴードン・B・ヒンクレー大  
管長、トーマス・S・モンソン  
副管長、ジェームズ・E・ファ  
ウスト副管長による大管長会  
からの手紙、2003年3月  
19日付





# 扶助協会に 歓迎する

**両親、指導者、監督は若い女性が扶助協会に移行するのを助けるうえで特別な役割を果たします。**

ラリーン・ポーター・ガント  
教会機関誌

**中**央扶助協会会長ボニー・D・パーキン姉妹と中央若い女性会長スーザン・W・タナー姉妹は、自分たちがチームであることを何のためらいもなく認め合っています。パーキン姉妹はこのように述べています。「わたしたちは二人とも、扶助協会と若い女性で責任を果たしてきました。それぞれが両方を経験してきているので、一致団結しています。若い女性のことも、扶助協会の姉妹たちのことも愛しています。」

パーキン姉妹とタナー姉妹は、若い女性が若い女性プログラムから扶助協会にスムーズに移行できるよう協力し合うことの大切さを理解しています。

若い女性にとって扶助協会は安心できる場所であり、救い主への証を強め、救い主の愛を感じるようになることになると、二人は述べています。若い女性の友達からは離れることになりませんが、自分を愛してくれる別の人々が歓迎してくれます。友達の間が広がるだけなのです（「次の一步」26参照）。また二人は扶助協会の姉妹たちに、慣れ親しんだ人たちとの交流だけに満足せず、若い女性にも手を差し伸べるように言っています。彼女たちの隣に座り、名前を覚えてください。自分

から話しかけてください。言葉を交わすようになれば、姉妹同士になれるのです。

また二人は指導者に、協力して若い女性一人一人のために計画を立てるように言っています。それは彼女たちの生活にとって益となる、また彼女たちが神から与えられた可能性に気づく助けになるようなものでなくてはなりません。

## 決断の10年間

青少年から成人へと移行する決断と変化の10年間に、父母や教会指導者や友人は皆、若い女性の成長を助けるうえでそれぞれの役割を果たします。しかし両親はほかのだれよりも大きな責任を負います。移行への過程は、若い女性が18歳になるずっと以前から始めるべきで、扶助協会に入った後も続けなくてはなりません。

「わたしの母は、扶助協会の女性たちを自分の姉妹のように愛していました。」パーキン姉妹はそう語ります。「母は求められたことを喜んで実行する人でした。母の模範があったのは、わたしにとって素晴らしいことでした。すべての母親が扶助協会についての証を娘に伝えれば、若い女性の姿勢も変わるでしょう。若い女性が福音の中で成長できるよう助ける祖母、友人、姉がいれば、若い女性とその将来は変わるでしょう。」

パーキン姉妹は続けてこのように述べています。「父親にも、娘が扶助協会の良さを受け入れるよう励ます責任があります。ある父親が娘にこう言いました。『扶助協会が君の生活の一部になるよう願っているよ。扶助協会のおかげでうちの家庭も恩恵を受けてきたし、君が今のような若い女性にな

## 若い女性が扶助協会に移行するのを助ける



るのに一役買っているのだから。』

監督や支部長、扶助協会の指導者および若い女性の指導者は、特別な役割を果たさなくてはなりません。監督の面接は、青少年がこの時期を乗り切るのを助けるうえで最も効果のある手段の一つと言えます。特に若い女性の指導者は、面接を順調に進める助けをすることができます。監督と会い、卒業して若い女性の組織を離れる姉妹たちのことを監督に認識してもらおうのです。

タナー姉妹は若い女性の指導者に対して、このように勧めています。「両親と話をし、どのような助けが必要か尋ねてください。そして若い女性を助ける割り当てを引き受けてくれる扶助協会の指導者を探してください。そしてその指導者に、若い女性一人一人の才能を教えてあげてください。何事も積極的に行ってください。」

### スカートと聖文研究

両組織の指導者は共同で、友情を築く活動を計画することができます。あるワードでは、若い女性が裁縫を習いたいという希望があったので、扶助協会の姉妹たちに助けてもらうことになりました。ミューチャルの活動の夕べで、若い女性一人に扶助協会の姉妹一人がついて、スカート作りを手伝ってもらいました。そしてそれぞれのペアが後日家で仕上げたのです。若い女性は扶助協会の姉妹たちをファッションショーに招き、新しい色とりどりのスカートをはいて登場しました。

またほかのワードでは、扶助協会の姉妹たちが聖文研究のパートナーとして若い女性を選びました。姉妹たちは一緒に聖文を読み、進度を確認しました。

最初の例では、まず若い女性が扶助協会の姉妹たちに声をかけ、2番目の例では、扶助協会の姉妹たちが若い女性に声をかけました。どちらの例でも友情は続き、その友情が生活をより豊かなものになっています。

『互いに和合し、愛し合って結ばれた心を持つ』という

以下は指導者への提案です。

1. 娘が扶助協会の価値を理解するうえで力になるよう母親を励ます。

2. 若い成人女性が扶助協会に慣れるまで面倒を見るよう、扶助協会副会長に特別な責任を割り当てる。

3. 扶助協会の新しい会員にやりがいのある召しや家庭訪問、慈善奉仕の割り当てを与える。

4. 時折、若い女性と扶助協会両組織の指示の下、若い女性と扶助協会の姉妹たちを家庭、家族、個人を豊かにする集会で引き合わせるよう計画する。

5. ミューチャルの活動で、賢明な生活、ホームメイキング、福音の原則を個人の生活に応用させることを強調する(2003年3月19日付けの大管長会の手紙における提案を参照)。

ことです(モーサヤ18:21)」とパーキン姉妹は言っています。「だれかの心を知ったら、必ず変わります。その人の動機や優れた点を理解できるので、裁かなくなります。」

### 姉妹としてのきずなを築く

「姉妹としてのきずな」とは何かと尋ねられたパーキン姉妹とタナー姉妹からは、同じ答えが返ってきました。「聖約を守ることです。」

バプテスマから神殿の結び固めまで、わたしたちは「神聖な聖約を交わして守り……ます。」<sup>1</sup> タナー姉妹は語ります。「聖約を通して、わたしたちは天の御父に対して義務を負うことになります。そしてこれらの聖約を守ると、愛をもって人と接するようになります。それが姉妹のきずなです。」

聖約を守るという点で、扶助協会はほかの女性団体と異なっています。「末日聖徒イエス・キリスト教会の女性であれば、扶助協会に活発に参加すべきです。」パーキン姉妹はそう語ります。扶助協会は、女性が信仰をはぐくむ場として皆が集う場所であるべきです。

### キリストのもとに来る

若い女性と扶助協会の姉妹たちは互いに手を差し伸べ合い、聖約を守ることでキリストのもとに来るうちに、姉妹同士の輪を広げていきます。パーキン姉妹はこのように述べています。「若い女性の人生を決定づけるこの時期に、わたしたち両親、指導者、監督、友人は、良い意味で強い影響力となることができません。また反対に、若い女性はわたしたちにとっても良い模範となることができません。わたしたちは協力し合う一つのチームになり、一致するようになります。」■

注

1. 「若い女性のテーマ」『若い女性——成長するわたし』5



### わたしたち扶助協会が受け継いでいるもの

「だれもが扶助協会の起源を知る必要があります。」そう語るのは中央扶助協会会長のボニー・D・パーキン姉妹(左上)です。「扶助協会は預言者によって設立され、神の手の下に組織されました。」



扶助協会の起源について、中央若い女性会長のスーザン・W・タナー姉妹(中央左)はこのように述べています。「若い女性には模範が必要です。過去の気高い末日聖徒の女性がその役割を果たしてくれまます。ですからわたしたちは歴史について触れるのです。」



教会歴史の中での最初の扶助協会の集会は、わたしたち全員にとっても模範となります。パーキン姉妹はこう述

べています。「集った人々に注目すれば、そこには年齢の壁がなかったことに気づきます。集まったのは姉妹たちばかりでした。10代の女性が3人いました。最年長の女性は50代でした。11人は既婚者で、2人が寡婦、6人は独身女性でした。これが最初の扶助協会です。わたしたちの基盤となっているのです。」

考えてみれば、わたしたちが力強い影響を受け継いでいることが分かります。ある若い姉妹がそのことに気づき、パーキン姉妹に手紙を書きました。彼女は、ここ何年か、女性たちによって扶助協会の歴史が語られてきた理由が分かったと述べています。「それはわたしたちがすばらしい組織に属しているからです。この初期の末日聖徒の女性たちは、すばらしいものを作り上げてくれました。そしてわたしもその一員で、そのすばらしいものを受け継いでいるのです。」



# 福音を聞く人

ンゴツィ・F・オコロ

ルームメイトや  
友達は、  
教会のことを  
伝えようとしても  
振り向いて  
くれませんでした。  
それでもわたしは、  
福音を伝える  
機会を求めて  
祈り続けました。

**ナ** イジェリアにあるイバダン大学学生寮でのある騒がしい夜のことです。外は土砂降りの雨で、涼しい風が、窓から入って来ます。同じ階にある幾つもの部屋からは、いろいろな音楽が流れてきていました。寮の女の子たちは歌ったり、大きな声でおしゃべりしたりしていました。

姉は友達のところ遊びに行ってしまいましたが、わたしは残って自分とルームメイトのために夕食を作ることにしました。理由は説明できませんが、残った方がよいと強く感じたのです。

スープを作り始めたとき、イフェオマが入って来ました。大学のキャンパスで集会を開いているある教会の宣教師です。ルームメイトたちとの間で福音についての話し合いが始まりました。イフェオマはルームメイトたちにしばらく教えを説いてから、教会に来よう誘いました。ルームメイトたちは、進んで行く約束をしました。

がっかりしました。わたしがルームメイトたちを末日聖徒イエス・キリスト教会に誘ったときには、いつも断られていたからです。最初に誘ったときは、わたしも教会もばかにされてしまいました。それからの3年間何度か誘いましたが、すべて断られていました。まるでわたしは、無能な会員宣教師でした。でも、「あきらめてはいけない」といつも自分を励まし続け、大学の中で福音を聞く人に出会えるよう、何度も断食して祈りました。

「こんにちは」とイフェオマはわたしの方を向いて声をかけてきました。「料理をしながらでいいから聞いてくれない?」

「いいわよ」とわたしは答えました。

「あなたは新しく生まれていますか?」

「ええ。『新しく生まれる』という言葉、イエスがニコデモに教えられた意味で使っているのだったら。」(ヨハネ3:1-21参照)

「おもしろいことを言うわね。どこの教会に通っているの?」

「末日聖徒イエス・キリスト教会よ。」わたしはそう答えました。

するとイフェオマは驚いた様子で言いました。「モルモンなの?モルモンは変わった聖書を使っていると聞くけど。」

「聖書ではなくて、モルモン書というの。イエス・キリストについてのもう一つの証<sup>あかし</sup>よ。」

「どんなことを信じているのか、教えてくれる?」

「喜んで」と自信をもって答えたわたしは、信仰箇条とモルモン書について話し、イエス・キリストを信じる信仰、悔い改め、バプテスマについて教えました。イフェオマは黙って聞いていました。最後にわたしは証をして、イフェオマにモルモン書を1冊渡しました。だれかに渡そうと思って用意していたものです。

「もらってもいいの?」

「ええ。わたしからのプレゼントよ。」そう言うと、わたしはモルモン書を開いてニーファイ第二書第25章26節を読んでくれないかと頼み

ました。イフェオマは、快く引き受けてくれました。「わたしたちはキリストのことを話し、キリストのことを喜び、キリストのことを説教し、キリストのことを預言し、また、どこに罪の赦しを求めればよいかを、わたしたちの子孫に知らせるために、自分たちの預言したことを書き記すのである。」

読み終わったときのイフェオマの表情は真剣そのもので、わたしが言ったことがほんとうだと確信しているようでした。

「あなたの教会の会員はキリストを信じていないと思ってたわ」とイフェオマは小さな声で言いました。

次の日曜日にわたしと一緒に教会に行くように勧めると、イフェオマは賛成してくれました。「ありがとう、ンゴツイ。あなたと話しているとき、温かい気持ちを感じたの。こんな気持ちは今まで感じたことがないわ。」

イフェオマが帰ってから、姉と一緒にいかずに残った方がよいと強く感じた理由が分かりました。わたしは御霊に導かれていました。そして喜んで聞こうとする人について福音を伝えることができたのです。■

ンゴツイ・F・オコロは、ナイジェリア・イバダン地方部、イバダン第1支部の会員です。



# 徳質を歌う



リリエルは自分の徳質について語る事が  
できませんでした。しかし、その徳質に従って  
生活することにより得たメダルが、  
彼女の徳質を語って  
くれたのです。

ジャネット・N・オークス

ハケエル・「リリエル」・  
ドミシアーノは何百万もの  
人々の前で歌おうとしていま  
した。失敗することについて心  
配したでしょうか。少しは心配しま  
した。何を着ていくか心配したでし  
ょうか。だれだってそうでしょう。では何  
がいちばん心配だったでしょうか。

当時19歳で、教会員となって5年のリ  
リエルは、「いつでも、どのようなこと  
についても、どのような所にいても、……神  
の」証人として立ちたいと望んでいました  
(モーサヤ18:9)。

リリエルはブラジル最大のテレビ・タレント  
コンテスト、ハウル・ジル・アマチュアショー  
で歌おうとしていました。リリエルは自分の宗  
教については一切口止めをされていま  
した。しかし、ブラジルの末日聖徒の多く  
がこの番組を見ると分かっていたり



リエルは、自分が福音を恥としていないことを皆に知らせたいと思いました。最初の歌が始まる前に控え室で祈り、顔を上げたリエルの目に入ったもの、それは若い女性のメダルでした。そのメダルこそ彼女が求めていた祈りへの答えだったのです。

リエルはコンテストの間ずっとメダルを身に付けていました。そしてついに、パートナーのテナー歌手のヒナルド・ビアナとともにコンテストに優勝し、レコーディングの契約にサインすることになりました。二人が出した最初のCDは、何と100万枚の売れ行きで、ブラジルの歴史上2番目のベストセラーとなりました。

リエルとヒナルドの歌は一夜明けたら大ヒットとなっていましたが、リエルの成功は表情豊かなソプラノとして修練を積んだ何年にもわたる準備の結果でした。リエルは、自分が人生へ備えることができたのは若い女性のプログラムに参加したおかげだと考えています。

### 霊的な徳質を学ぶ

リエルは、当時、同じブラジルでも別の所に住んでいた姉のパトリシアから教会を紹介され、14歳でバプテスマを受けました。

リエルはこう語っています。「姉が、いつだったか里帰りをしたときに、わたしたちを教会へ誘ってくれました。教会の人たちは皆、霊的で身なりもきちんとしていました。だれもが皆、人はこうあってほしいとわたしが望んでい

た標準を守っていました。わたしはとてもうれしくなりました。わたしの心に働きかけてくださる聖霊の力を感じました。心からイエス・キリストの福音を学びたいと思いました。」

教会を紹介されてから間もなく、リエルは妹のプリシラと一緒にバプテスマを受けました。母親も二人の後に続きました。リエルとプリシラは若い女性のプログラムに夢中になりました。

「わたしたちは同じ教室で学ぶことが何度もありました。二人してほんとうに一致していました」とリエルは語っています。「『成長するわたし』の目標を一つ達成すると、次の目標を目指して頑張ることについてよく話し合ったものです。」

やがてリエルは「若い女性表彰」、つまり後に何百万もの人々の前で着けることになるあのメダルを獲得しました。このメダルは救い主に従いたいという彼女の望みを象徴していました。

「若い女性のメダルを獲得することによって達成感を味わうことができました。自分にとってそれは神殿で結婚し家族を築く霊的な備えができたという意味です。」リエルはそう語ります。

リエルはすべての若い女性がメダルをもらえるようにと望んでいます。リエルはこう語っています。「年齢は関係ありません。何歳になっても、メダルを見る度に、自



多くの時間を割き、多くの人々の前で証人として立ち、ブラジル全土の聴衆のために(上と左端)、またモルモンタバナクル合唱団とともに(左上)歌うリエル。リエルは最近リリースした曲、「主を信じ」で(ブラジルのグラミー賞に当たる)トロフェー・インプレッサを授与された。





**リリエルは成長するにつれて(下)、歌手になることを夢見るようになった。現在、最大の夢は自分の家族(右)と永遠とともに生活することである。**



分が達成した目標、自分にとってのメダルの意味、メダルを獲得する過程で築かれた人生の基礎を思い出すのです。』

リリエルは歌うときにメダルを着けることで、自分が末日聖徒イエス・キリスト教会の会員であることを世の人々に分かってもらい、何百万もの人々の前でもひるむことなく、進んで証人として立ちました。

### 生涯の徳質

リリエルも今は22歳になりますが、教会員となつてからというもの、若い女性の徳質、特に信仰について多くのことを学んできました。

リリエルはこう語っています。「ほんとうにまだ幼いころから聖文を読んでいました。いつも神様のことを知りたい、いつも神様を身近に感じていたいと思っていました。』

成長するにつれて、歌手になりたいというリリエルの夢は現実味を帯びてきました。しかし、その夢は家族が経済的な苦境にあったこともあって、なかなか思いどおりには進展しませんでした。「それが悲しくてほんとうに何度も泣きました」とリリエルは語っています。「じっと我慢するということができませんでした。でも、そんなときにこう語りかける声が聞こえたのです。『落ち着きなさい。まだその時は来ない。』』

リリエルは家族を経済的に援助しようと努力する一方で自分の夢に向かって頑張り続けました。つらい時期でした。彼女はこう語っています。「神様はわたしたちを試されますが、そのすべてがわたしたちの成長のためなのです。」

そのすべてを通して、リリエルは自分自身と天の御父について多くのことを学んでいます。彼女はこう語っています。「天のお父様がわたしを愛しておられることを知っています。謙遜でいるかぎり、わたしの祈りを聞き、問題を克服できるように助けてくださいます。天のお父様が祈りに耳を傾け、こたえてくださることを知っています。望むような答えではないこともありますが、確かに天のお父様は祈りにこたえてくださいます。そのことに何の疑いもありません。」

リリエルは自分の経験に周囲の人々が靈感を受け、末日聖徒だけでなく、ブラジル全土の

若人にとって良い模範になればと願っています。実際、リリエルは好スタートを切っており、ブラジルの様々なテレビ番組にも出演しています。

### 大いなる徳質

リリエルの好きな聖句は箴言第31章10節と25節から26節です。これは若い女性のテーマに添って生活する姉妹たちとは関係の深い聖文です。



「だれが賢い妻を見つけることができるか、彼女は宝石よりもすぐれて尊い。……

力と気品とは彼女の着物である、そして後の日を笑っている。

彼女は口を開いて知恵を語る、その舌にはいつくしみの教がある。」

何百万もの人々の前で証人として立つのであれ、自分の部屋で静かに過ごすのであれ、「〔若い女性の〕徳質を受け入れ、その徳質に従って行動する」若い女性の将来性は、宝石よりもはるかに価値あるものとなります。なぜなら、「家庭と家族を強め、神聖な聖約を交わして守り、神殿の儀式を受け、昇栄の祝福にあずかる備えができるようになる」<sup>1</sup> からです。■

ジャネット・N・オークスは、現在、ブラジル南地域管理本部で夫のジョージとともに専任スタッフとして働いています。

### 注

1. 「若い女性のテーマ」『若い女性—成長するわたし』5

# 汚れを落としなさい



その汚れ、石けんと水で落とせますか？  
真の清潔さと清さを得るためには、心からの悔い改めが必要です。  
(教義と聖約58:42-43参照)

## 傾いた船の中で

アーチャー・D・スミス

**わ**たしはかつて、米海軍の駆逐艦で軍務に就いていました。ある晩、駆逐艦が真珠湾を出て北太平洋に向かった後、わたしは夜勤の航行管理者を務めることになりました。夕食後、わたしは勤務に就く前に少し眠ろうと自分の寝台で横になりました。まどろみながらも、船が波の上で揺れるのを感じていました。

後でわたしが勤務交替をしたとき、その揺れはよりはっきりとしたものになっており、真っ暗な船の甲板に出ると、風の鋭い冷たさを感じました。

冬の北太平洋は、かなり荒れることがあり、その夜、波は大きく、風が波頭に吹きつけ、白波が立つほどでした。

「交替の用意ができました」とわたしは言いました。

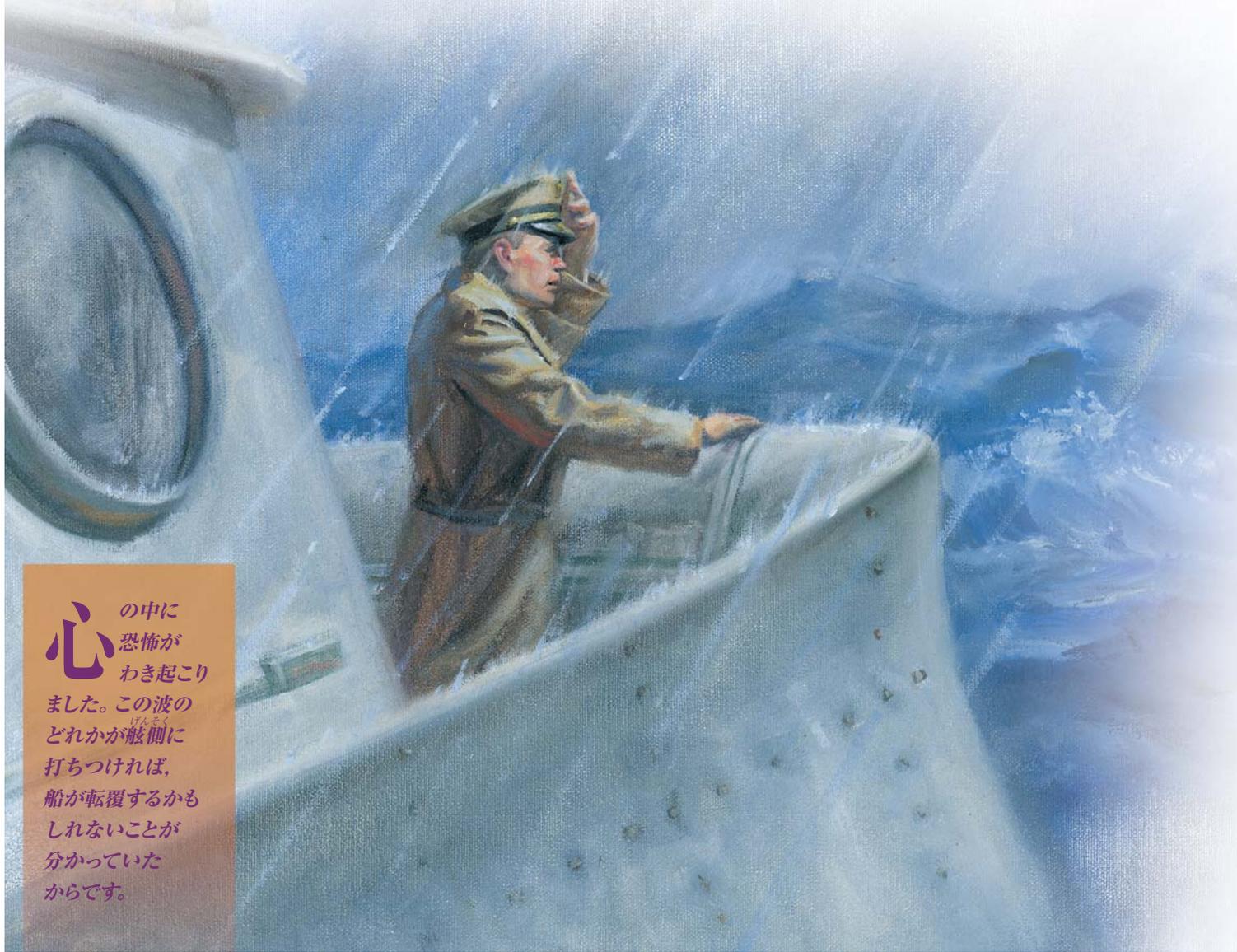
わたしと交替した士官の顔には羅針盤の柔らかな光が反射していました。彼は船の進路と速度を報告し、海軍大佐は今晚はすでに就寝したと付け加えました。そして、「気圧計はこの1時間に100分の3下がった」と言いました。それは嵐が来ることを意味していました。

「大佐はそのことを知っているのですか」とわたしは尋ねました。

「知っていますが、特別な指示はありませんでした。」

彼は操舵室そうたせつに入ってドアを閉め、わ

絵/ロバート・A・マックレイ



**心**の中に恐怖がわき起こりました。この波のどれかが舷側へんそくに打ちつければ、船が転覆するかもしれないことが分かっていたからです。

たしは独りで危険な海を見ることになりました。

船が嵐に遭ったとき、士官たちは操舵を保てるだけの速度で、常に船首を風上に向けることになっていました。波が舷側げんそくにぶつかると、ひどい横揺れが起こり、乗組員がけがをする場合があるからです。船が転覆することさえあるのです。

1時間後、波は山のような高さになっていました。風はたけり狂い、大量の海水が大きくうねる波から空中に吹き上げられていました。船は、何度も迫り来る波の前面を這い上がっていちばん高い所まで行き、一瞬そこにとどまった後、波の背面を素早く滑り落ちて波の谷間に突っ込み、上下左右に揺れ続ける甲板から水を流しながら、再び浮かび上がっていました。船を安定させるため、わたしは速度を落とさなければなりませんでした。

嵐は激しさを増し、気圧計はさらに100分の5下がっていました。わたしは大佐に状態が悪化していることを報告しました。大佐は「よろしい」とだけ返事して受話器を置きました。

間もなく操舵手が「大変です。船の向きが右舷に寄っています」と叫びました。素早く羅針盤を確認すると、船首が波の谷間に向かって少しずつ動いていることが分かりました。この状態が続けば、舷側が波に向かうという危険な位置になってしまいます。わたしは操舵手に必要な調整を行うよう指示しましたが、羅針盤の針はすぐ元に戻り始めました。操舵手は再び方向を正そうとしましたが、船はなかなか反応しません。

状況は悪化していました。風は金切り声を上げ、風速は100マイル(約160キロ)、波の高さは50フィート(約15

メートル)にもなっており、船首は波の谷間に向かって進み続けました。心の中に恐怖がわき起こりました。この波のどれかが舷側に打ちつければ、船が転覆するかもしれないことが分かっていたからです。わたしは大佐に連絡しました。大佐は船の激しい揺れで眠ることができず、やはり心配していました。大佐にも助言はなく、できる限りのことをするようわたしに言いました。

操舵手がおびえた声で、できることはすべてしたが船首はなお右舷にとられていると知らせてきました。わたしはすっかり慌てふためき、恐れはパニック状態へと変わっていました。しかし、そんな中でも必死に頭の中で解決法を探しました。悪夢のような考えで頭がいっぱいになりました。わたしは自分の無力さを実感し、心からへりくだりました。

わたしは、子供のようにひたすら、自分を助けることがおできになる唯一の御方である天の御父に向かって叫びました。わたしの熱烈な懇願に対する答えは速やかではっきりしたものでした。心の中の声がこう告げたのです。「両方のエンジンを動かさなさい。それぞれのエンジンを異なる出力で動かさなさい。」わたしはすぐにその意味を悟りました。

わたしはこう指示を出しました。「右舷エンジン前進、出力3分の2、左舷エンジン前進、出力3分の1。」すると、船首はゆっくりと反応し、間近に迫った波の谷間から抜け出しました。船が再び波に向かって進むようになったとき、かつてなかったほどの感謝の念に包まれました。嵐は続きましたが、わたしは片方のエンジンの出力を上げ、もう片方のエンジンの出力を下げることによって、船の方向を保つことができ

ました。

疑い深い人は、その解決法がわたしの頭にずっとあったものと言うかもしれないませんが、わたしにははっきりと分かります。あの解決法は祈りの答えとして与えられたものなのです。■

アーチャー・D・スミスはユタ州プロボ・エッジモントステーク、エッジモント第4ワードの会員です。

## 苦しみを克服して 成長する

ワシントン・ザンブラノ

**わ** たしたちは、ドイツ出身の家族がエクアドルのキトにあるプスキ支部に新しく越してきた日曜日のことを決して忘れないでしょう。支部長はフックス一家を聖餐会せいさんかいで紹介し、わたしたちはその家族が特別な人々であると即座に感じました。

聖餐会の後、わたしはフックス家に歓迎のあいさつをしようと家族を連れて行きました。フックス家のいちばん上の子供であるアンドレアスが温和な態度であいさつをし、アンディーです、と自己紹介しました。そのとき感じた何かが彼らとの友情の始まりを示唆していました。その友情は、深く、真実で、確かに永遠に続くものであり、わたしたちに忘れ難い思い出を残すことになりました。

時がたち、フックス家はわたしたちの支部にすっかり溶け込みました。当時、わたしは若い男性の会長で、アンディーがすべてに熱心な若者であることにすぐに気づきました。わたしたちが奉仕活動を始めると、アンディーは満面の笑みを浮かべながら、いちばん

最初に現れました。

アンディーは非凡な人物でした。天の御父の恵みと地上の両親の導きを受けていたからでしょう。早い時期から愛情と忍耐をもって育てられていました。アンディーと父親のホルストは多くの活動を共にし、お互いになくしてはならない存在でした。そのためアンディーは成熟しており、14歳にして有能で役に立つ人物となっていました。アンディーの多くの才能にわたしたちはいつも驚かされていましたが、アンディーは自分の多才さに対して謙虚でした。アンディーはイエス・キリストの福音を学ぶことに専念し、人々に教会のことを話す機会を逃しませんでした。

アンディーがわたしたちのもとからこれほど早くいなくなってしまうとは、だれも想像しませんでした。わたしたちはアンディーの悲劇的な死について知ったあのつらい土曜日のことを今でも覚えています。

その朝アンディーは、近くの丘の頂上まで自転車で行くことにしました。すでに父親とは一緒にそうしたことがあり、今度は一人でこの快挙を成し遂げようと決めていました。父親の許可を得て、アンディーは出発しました。アンディーが丘を上っているとき、木材を運搬していたトラックがものすごいスピードで左右に揺れながら荒々しく丘を下りて来ました。トラックはアンディーに衝突し、彼は即死しました。あのように賢く、将来有望な若者にこのような悲劇が起こったことを受け入れるのは難しいことでした。

トラックの運転手は重傷でした。運転手は自分の過失に対する処罰から逃げるのがないよう、警察の監視下でキトの病院に運ばれました。わたしたちは運転手が間違いなく事故の責

任を負わされるものと思っていました。しかし、ホルスト・フックスにより、わたしたちは皆、赦すことを学んだのです。

支部長とわたしはフックス兄弟とともにアンディーの遺体を確認しに行きました。息子の死はとてつらいものでしたが、フックス兄弟はアンディーの命を奪った人を赦しました。フックス兄弟は、心の中に憎悪を持ち続けることを拒んだのです。数日後、フックス兄弟は病院にいたトラックの運転手を訪れ、あなたを赦します、と告げました。そして助けを申し出、イエス・キリストの福音について話しました。トラックの運転手は自宅で養生しながら、フックス兄弟と同行した宣教師の話聞くようになりました。フックス兄弟は裁判所へかけあって、運転手への告訴をすべて取り下げさせました。

わたしはフックス兄弟の表した愛は、フックス家が実践しているイエス・キリストの福音に基づいていることを知っています。フックス家はほんとうに優れた人々です。フックス家の模範は、わたしたちに、キリストによってのみ強大な力や慰めや支えがもたらされることを示してくれました。

苦しみを乗り越えることにより、わたしたちはより善い人となることができます。人生には涙が付き物であることを理解していますが、わたしたち支部の会員はそれでも、信仰を持ち、毎日福音を實踐し分かち合うために熱心に努めなければならないことを、アンディーの思い出とその父親の模範から学びました。そして、イエス・キリストのおかげで、アンディーとまた会えるという信仰を持つことができるのです。■

ワシントン・ザンブラはエクアドル・キト・サンタアナステーク、サンファンワードの会員です。

## わたしが必要としていた助け

マーガレット・ケイ・クリステンセン

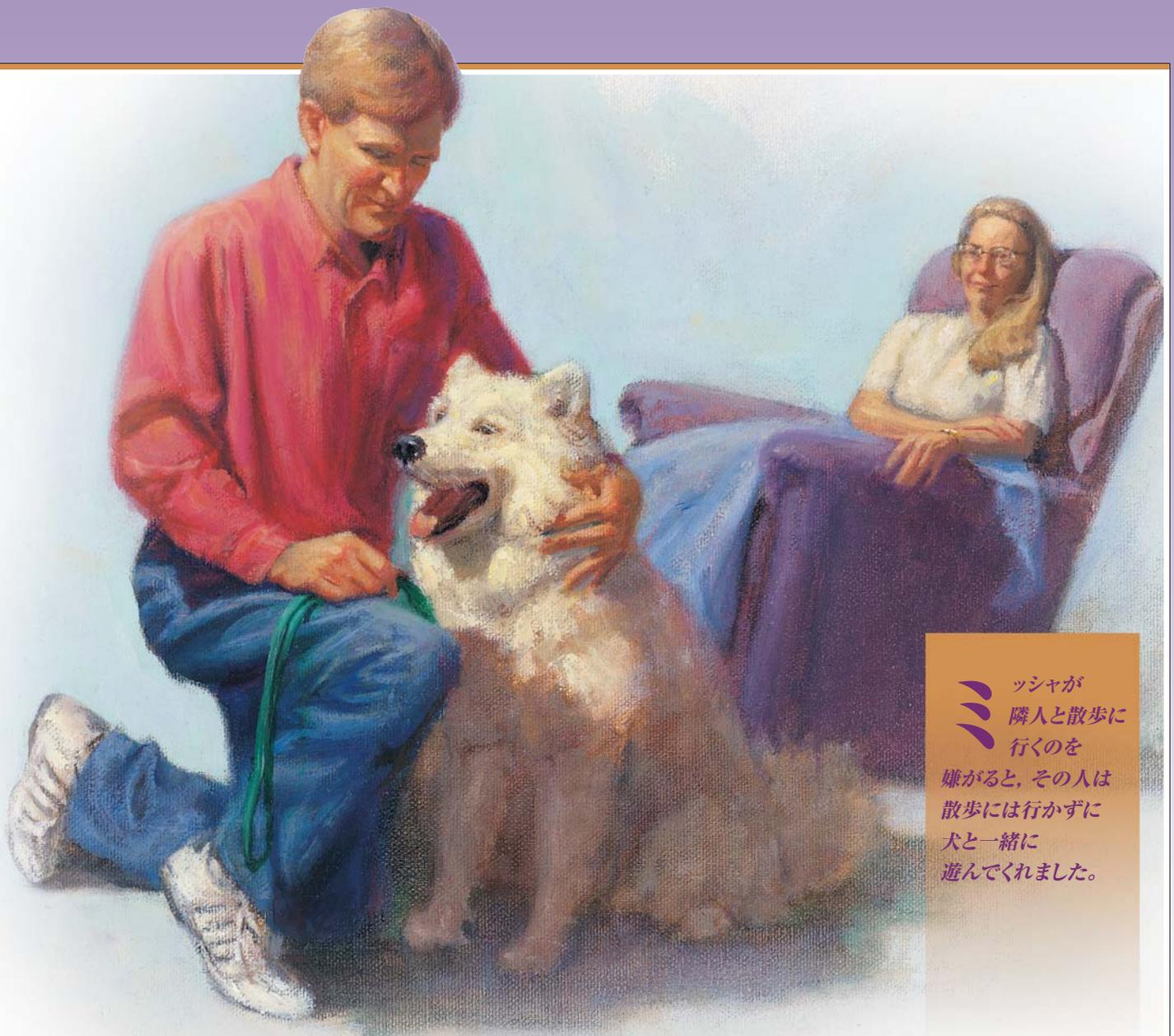
**隣**人がしてくれた奉仕の行いは、人々が必要としていることに気づき、それを満たすよう助けることの大切さについて、忘れられない教訓を与えてくれました。

3人の子供を独りで育てていたわたしは、ある程度人に頼らず家族の面倒を見られるようになっていました。しかし、1989年の春、状況が変わり、新たな課題が持ち上がりました。帰還宣教師だった上の息子は結婚し、米海軍士官として遠方で働いていました。娘と下の息子は、2週間後には伝道に出る予定でした。そういうわけで、わたしは初めて独り暮らしをするようになったのです。

いいえ、まったく独りになるわけではありませんでした。ミッシヤという大きくて美しい雌のサモエード犬がいました。子供たちのうち一人が犬を毎日散歩に連れて行っていましたが、皆がいなくなれば、この仕事はわたしがしなければなりません。問題は、わたしがかかとの骨の突起を取る手術を受けることになっており、数週間は術後の痛みがひどく、歩くのが困難になることでした。

下の息子が、宣教師訓練センターへたつ前にミッシヤを連れて最後の散歩をしていたとき、近所の人から呼び止められました。その男性は我が家の子供がだれか帰って来るまで犬を毎日散歩させてあげる、と言ってくれました。

その隣人がミッシヤを散歩に連れて行こうとした最初の晩、ミッシヤは知ら



ミッシャが隣人と散歩に行くのを嫌がると、その人は散歩には行かずに犬と一緒に遊んでくれました。

ない人に連れて行かれるのを嫌がりました。そこで、その人は散歩には連れて行かず、ミッシャと15分ほど一緒に遊びました。その人は次の晩もやって来てミッシャと遊び、仲良くなりましたが、ミッシャはそれでも散歩に行くのを嫌がりました。3日目の晩に犬はやっと行く気になり、間もなくこの新しい友達が来るのを毎晩しびれを切らして待つようになりました。

手術を受けたわたしの足が治って随分たち、わたしがその責任を引き継ぐことができるようになって、隣人は引き続きミッシャを散歩に連れて行ってく

ました。彼の夜間の仕事が1週間に3日入って忙しくなったときは、奥さんが代わりに連れて行ってくれました。わたしの娘が帰って来るまでの1年半、このすばらしい隣人たちは、毎晩最低でも1時間ずつ犬を散歩に連れて行ってくれました。来られなかったのは、町を離れて短い休暇を申し訳なさそうに取った3晩だけです。これは合計すると547時間もの奉仕になります。

わたしは隣人たちが御霊に導かれていると確信しており、二人がわたしの必要に気づき、それにこたえてくれたことに感謝しています。これはわた

しが二人に頼もうとしていたことではありませんでした。しかし当時のわたしの負担を考えると、これ以上わたしの助けとなった奉仕はありませんでした。アルマの「重荷が軽くなるように、互いに重荷を負い合う」という勧告に従い(モーサヤ18:8)、この隣人たちは、わたしにとって忘れられない、愛に満ちた奉仕という模範を示してくれたのです。■

マーガレット・ケイ・クリステンセンはユタ州ミッドバールステーキ、ミッドバール第5ワードの会員です。

# 天からの雨



七十人  
ロナルド・T・ハルバーソン

ポリネシアの  
人々は素朴で  
篤い信仰を  
持っています。  
彼らは真理に  
ついて聞き、  
それが真実である  
と感じたなら  
受け入れます。

**太**平洋諸島地域会長会の一員として奉仕していたとき、島の人々と知り合いになり実にすばらしい経験をしました。彼らは偉大な信仰を持つ人々です。彼らを管理し、その子供たちと会うにつれ、幸福になるためには世のいかなる富にもとらわれる必要はないということをすぐに学びました。

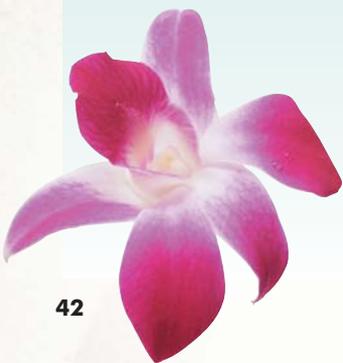
トンガにいたとき、地方部大会に出席するために島から島へ移動しました。妻と通訳者、そして伝道部長夫妻が一緒でした。別の島へ行くためには舟を使います。ハーパイからハーフェバへの舟による移動には4時間かかりました。ハーフェバに到着すると、聖徒たちは海岸に一列に並んで、歌を歌って出迎えてくれました。わたしたちはズボンのすそを巻き上げ、靴を脱いで海岸まで歩いて行きました。

程なく、この地域の人々が干ばつのために長く苦しんでいることを知りました。この島々では、屋根から落ちる雨水をたるにため、たるから水を飲みます。雨が降らなければ、飲料水がなくなりますし、作物も育ちません。そのときの干ばつは非常に長く続いていたた

め、飲料水も底を突いていました。しかし聖徒たちはその日の夕食に、最後の食料を提供してくれたのです。わたしはこう思いました。「何という信仰だろうか！」彼らは断食をしていました。そして雨を求めて一緒に祈ってほしいと願い、わたしたちはともに祈りました。

大会が終わって帰途に就こうとしたとき、島の人々は、雨を求めて祈っただけでなく、わたしたちが目的地に到着するまで天気恵まれるよう祈ってくれました。わたしたちは舟に乗り込み、晴れた空の下を帰りました。そしていよいよ最後の目的地に到着しようというとき、天が開き、島々は雨の祝福にあずかったのです。

多くのポリネシアの人々は、このような信仰を持ち、このような奇跡を起こしています。彼らは素朴で篤い信仰を持ち、証拠を必要としていません。主が生きていて、自分たちを愛しておられることに一点の疑いも抱いていないのです。彼らは真理について聞き、それが真実であると感じたなら受け入れます。そしてその上に証を築き上げるのです。■





# 質疑応答

友人はバプテスマを受けたいと言いますが、  
どうも福音よりもわたしの方に関心があるようです。  
どうしたらよいのでしょうか。

## 『リアホナ』からの提案

ここで大切なのは、考えなければならぬ点がある点があると理解することです。一つは、友人が教会に関心を持っていて、あなたには福音を宣べ伝える責任があるということです。もう一つは、その友人とあなたはどのような関係にいるべきか——友情なのか、それとも、それ以上の関係なのか——を決めるということです。

### 福音を宣べ伝える責任

神はしばしば忠実な教会員の周りに人を呼び寄せ、福音によって祝福できるようにしてください。福音を宣べ伝えるのが最も効果的なのは、信頼関係が築かれたときです。つまり、友人から信頼されていれば、メッセージに耳を傾けてもらえる可能性も大きくなるということです。しかし、気持ちを深く理解し合っていくうちに、互いの関係がどのようなものか不鮮明になってしまうことも、珍しくはありません。

その友人の動機が何であれ、彼と教会との接点は今のところあなただけなのかもしれません。できるだけ多くの教会員に紹介し、彼を受け入れてもらえるようにしてください。あなたとの関係だけでなく、教会とのつながりを多

天の御父は人々に福音を教える様々な機会を与えてくださいます。友人をほかの教会員に紹介して、自分一人でプレッシャーを背負わないでください。

教会の指導者たちはこれまで、結婚について考えられるような年齢になるまでは、真剣なつきあいをしないように勧告しています。

あなたには異性とのつきあいに関する標準があること、そしてそれがあなたにとって重要なものであることを、友人に伝えてください。

両親や教会の指導者からの導きを求め、断食や祈りを通じて天の御父の導きを求めてください。

く持つことで、教会は彼にとってさらに居心地のよい場所になるでしょうし、証を強めていくときにも、あなただけに頼る度合いが低くなることでしょう。

### 二人の関係

教会の指導者は、デートの標準についてはっきり教えています。16歳になるまでは、真剣なつきあいを考えることはもちろん、デートそのものをもすべきではありません。10代後半でも、同じ人とだけデートすることは避けます。そのようなデートは、年齢が進んで成熟し、結婚に結びつくような交際ができるようになるまで待ってもよいでしょう。（詳しくは『若人の強さのために』「デート」24-25を参照してください。）

友人に対して正直で率直になることが大切です。決まった相手とだけデートをしたり、長期間デートしたりするほどの年齢になっていない場合には、そのことを彼に説明する必要があります。自分の生活の中で福音が最も重要であることを伝えて、正しいことをしたいと望んでいるだけでなく、自分が福音の中で見つけた喜びを彼にも見つけてほしいと願っていることを伝えてください。

二人が真剣なつきあいを考えられる年齢に達



写真：ウエルデン・C・マンダーセン、写真はイメージです

して、彼があなたとの友情をさらに発展させたいと望んでいるようでしたら、二人がお互いをどう思っているかを話し合う前に、彼が主の教会についてどう感じているかを確認することが最善策だということを、できるだけ早く彼に教えてあげてください。バプテスマは救いに至る最初のステップです。ロマンチックな関係に終止符が打たれたときによく生じる傷心や怒りのせいで、バプテスマというとても大切な機会を棒に振るような危険は避けるべきです。

### 導きを求める

このような状況にいるときには、祈

りをささげ、<sup>だんじき</sup>断食をし、両親や教会の指導者にアドバイスを求めるべきです。天の御父から関心を寄せられていることが分かって、安心できるでしょう。また、適切な時に適切な場所で適切な人と結婚することが永遠の救いにとって重要であり、そのことについて御父が自分を助けたいと望んでおられると知れば、心が安らぐことでしょう。天の御父の祝福を受けるにふさわしくあるか<sup>みこころ</sup>どうかは、あなたにかかっています。御心を知り、実践しようとするかどうかは、あなた次第なのです。

### 読者からの提案



友人にきちんと話してください。教会に加入するということは、自分のためにするのであって、人のためにするのではないと説明

してください。バプテスマを受けるとき、わたしたちは神と特別な聖約を交わします。その聖約は守らなければなりません。彼がそのことを知っていれば、正しい理由で決定を下す助けになるはずで

ユタ州ガーランドステーク、

ハウエルワード

シェリス・ブラッドリー、17歳



ある友人が教会のことを学ぼうと決意したとき、彼はわたしに関心があるという理由だけで、求道者になったのではないかと心配しました。しかし、一緒にモルモン書を学び、宣教師の話聞いていくうちに、彼の信仰が増していくのをこの目で見ました。良い模範を示すことで、わたし自身も教会員として成長しました。現在、彼は専任宣教師として伝道中です。

ユタ州プロボ・シャロン東ステーク、  
プレザントビュー第7ワード  
ジュリアーナ・ジュースティ、22歳

友人の模範によって教会に加入した人は数多くいます。ですから、その友人のために良い模範となってください。そして、彼が自分自身の証を持てるよう、助けるのです。しかしそれ以上に、わたしなら主に助けを求めましょう。将来、その友人が教会の偉大な指導者にならないとも限りませんよ。

ブラジル・ジョアオペソアステーク、  
トヘワード  
パウラ・ブランダオ・カバルカンティ、15歳



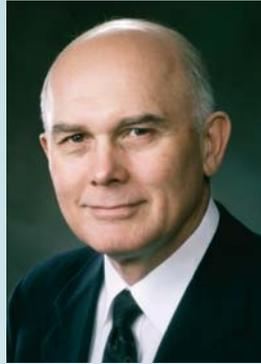
わたしの友人は、ワードのある人が好きだからという理由で教会に出席していました。数週間後、彼はその女性が自分には関心を持っていないということがようやく分かりました。

彼はがっかりしました。でも、彼は教会に来る度に、何かを感じていました。そこで、教会への出席を続け、ついにバプテスマを受けたのです。彼は専任宣教師として伝道にも出ました。教会は真実です。その証をどんな人とでも分かち合しましょう。

イギリス・ロンドン伝道部、  
チャド・L・クローニン長老、21歳

断食をして祈ってください。それからその友人に話すのです。そして、バプテスマを受けるかどうかは、彼の人生の中でも最も重要な決断の一つになるはずだと伝えてください。バプテスマは恋と関係ありません。神聖な儀式なのです。バプテスマについて祈るよう、彼にお願いしてください。

フィリピン・マカティステーク、  
マカティ第1ワード  
エミリー・パグラヤン、18歳



**「わたしたちは  
主が  
御自身の**

**方法と時に従って、  
福音を受け入れる人々を  
備えておられることを  
知っています。**

**……わたしたちが  
「いつでも、どのような  
ことについても……  
神の証人」となっている  
ならば(モーサヤ18:9)、  
主は福音を探し求めて  
いる人々を見いだして  
適切にコミュニケーション  
をする方法を明らかに  
して下さいます。」**

**十二使徒定員会  
ダリン・H・オークス  
「福音を分かち合う」  
「リアホナ」2002年1月号、  
8-9**

もしほんとうに友人に立派な教会員になってほしいと望んでいるなら、まずあなた自身が強い会員になる必要があります。信仰をもって前進するなら、主はあなたやあなたの友人を助けてくださいます。主はそれぞれの人に合った方法で働かれます。わたしたちはそれを理解できないときもありますが、主には目的があります。

ホンジュラス・

テグシガルパ・ラ・エスペランザステーク、  
ラ・エスペランザワード  
ベルキス・スグイ・ベラスケス・エルナンデス、18歳



彼とは真剣な関係にならないようにすることです。ただ友達でいて、楽しく過ごしてください。彼が福音についてさらによく知ることができるように励ましてあげてください。そして、祈りの中でいつも彼のことを思い出してください。彼が自分は神の子供であって、バプテスマを受けることは神のもとに帰るための一つのステップなのだという理解できるように助けてあげてください。

ナイジェリア・ポートハーコートステーク、  
ミニ・オコロワード  
フェイス・エジョケオジーン・イモー、17歳

本誌の答えは、問題解決の一助となるように意図されたものであり、教会の教義を公式に宣言するものではありません。

## あなたの意見を聞かせてください

青少年の読者の皆さんへ——下記の質問に対する意見を、氏名、生年月日、ワードおよびステーク(または支部および地方部)を明記のうえ、写真を添えて、2004年9月15日必着で下記まで郵送か電子メールでお送りください。

あて先——Questions and Answers 9/04  
Floor 24, 50 East North Temple Street  
Salt Lake City, UT 84150-3220, USA  
電子メールアドレス——cur-liahona-imag@ldschurch.org

## 質問

「ボルノグラフィーのせいで生活がめちゃくちゃになりそうです。見るのをやめようと努力するのですが、その度に失敗します。どうしたらよいのでしょうか。」■

# 御存じでしたか？



## それは8月の出来事でした

1878年8月25日——初等協会の初めての集会在、ユタ州ファーマントンで行われました。

1903年8月6日——福音をの宣べ伝えるため、ロシアが奉獻されました。

1927年8月21日——トーマ



ス・S・モンソン第一副管長の誕生日！  
モンソン副管長はソルトレーク・シティで生まれました。

1935年8月14日——アルゼンチン伝道部が組織されました。（現在アルゼンチンには10の伝道部があります。）

## わたしはだれでしょう？

### モルモン書のヒーロー

わたしの人生で起こった事柄を読んで、わたしがだれか当ててください。下にある参照聖句も読んで、わたしのことをもっとよく知ってください。

\* わたしの祖父と父は、両方とも預言者でした。

\* わたしには二人の弟がいました。

\* 父は若いころ「非常に邪悪な男で、偶像を礼拝する者」でした（モーサヤ27:8）。

\* 後に父は驚くべき霊的な経験をしました。そしてそのことで、父の人生は一変しました。

\* 晩年父は、わたしの兄弟たちを連れてゾーラム人のところへ伝道に行きました。

\* 伝道を終えて帰って来た父から、神を信頼するようにと教えられました。また、神聖な記録に関する責任を引き受けるために、備えをするようにと告げられました。

\* わたしが生きていた時代に、アマリキヤという名の邪悪な男がいました。彼は王になることを望んでいました。

\* 軍の指導者であったモロナイは、わたしの友人であり、同僚でもありました。

\* わたしはアンモンの民に戦いに出て行かないように説得しました。わたしは彼らの息子たちを指揮して戦いました。

\* わたしの「息子たち」とともに、わたしは多くの戦いに出て行き、レーマン人を国外に追い払いました。

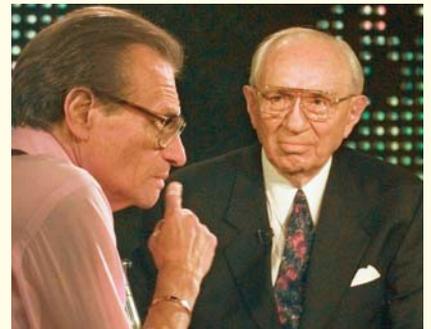
\* 晩年、わたしは福音をの宣べ伝える務めに戻り、神聖な記録を弟の手に渡しました。



答えは次の聖句を参照してください。モーサヤ18章；27章；29:42；アルマ31:7；36-37章；38:6-9；45:20-22；46:1-3, 38；48:19；49:30；53:10-22；58:41；62:38, 45；63:1

## 指導者へのヒント

ゴードン・B・ヒンクレー大管長（下、隣はトーク番組司会者のラリー・キング）は、わたしたちは栄えある大義の先頭に立つべきであると語りました。「わたしたちの文明を輝きのあるものとし、わたしたちの生活に慰めと平安を与える大義のために声を上げる指導者になってください。……皆さんの努力が恐れに負かされることのないようにしてください。……すべての真理の敵であるサタンは、皆さんの心に、努力したくないという気持ちを植え付けたいと思っています。そのような恐れを退け、真理と義と信仰の大義に雄々しくあってください。今、そのような態度を皆さんの生活の規範にする



と決意したら、再びそれを決意する必要はないのです。」（「生ける預言者の言葉」『聖徒の道』1998年6月号、26参照）

左上から「初等協会の初めての集會」リン・ファウセット画。ヒンクレー大管長の写真／CHURCH NEWSの厚意により掲載。複写は禁じられています。「2,000人の若い兵士」の一部、アーノルド・フライバーグ画



### 「ムハンマドに対する末日聖徒の見解」

わたしは2年前にバプテスマを受けました。現在、ナイジェリアにある大学に通っています。その大学では学生の大半がイスラム教徒であり、彼らの文化に自然に溶け込み、うまくつきあっていくのは容易なことではありませんでした。2002年6月号の『リアホナ』にある「ムハンマドに対する末日聖徒の見解」という記事に感謝しています。その記事から、異なった信条や教義を持つ人々の中で穏やかに生活していくことの必要性を強く感じました。また、この地上のあらゆる人々が、天の御父のすばらしい子供であるということをおいそう深く理解できるようになりました。

ナイジェリア・アベオクタ地方部、  
アベオクタ第1支部  
イモグ・アンソニー

### 地上に満ちる神の業

昨日の夜、就寝する前にいつものように『リアホナ』を読んでいました。すると、自分にとって『リアホナ』がどれほど大切であるか書き記すように、御霊の促しを受けました。わたしは34年前にスウェーデンでバプテスマを受け、8年前に娘と一緒に生活するためアメリカに引っ越して来ました。ここでスウェーデン語の『リアホナ』を受け取っています。

わたしはヒンクレー大管長がわたしたちに語る言葉を読むのが大好きで

す。新しいカンファレンスセンターで撮影された写真を見たとき、創世記第22章17節の、わたしたちは「浜べの砂のように」という預言を理解することができました。神の業が全地に満ちている様子を教えてくれる記事に感謝しています(ダニエル2:34-35, 44参照)。

メリーランド州ボルティモアステーク、  
サスケハナワード  
ウラ・モーテンソン

### フィリピンの聖徒たちの信仰

『リアホナ』を読んでいると、涙があふれてきます。1度だけではなく、何度もそのようなことがありました。ほんとうにわたしの心の琴線に触れた記事が一つあります。それは2001年12月号の中にある「信仰によって歩むフィリピンの聖徒たち」という記事で、デュエイン・B・ジェラード長老の言葉と一緒に掲載されているものでした。フィリピン・マニラ神殿でのゴードン・B・ヒンクレー大管長の奉獻の祈りは、確かに聞き届けられていると強く感じます。また、これからもその祈りが成就していくことを確信しています。

フィリピン・ガパンステーク、  
サントクリストワード  
エライザ・O・ピラモル

### 「義にかなった女性たち」

2002年12月号に掲載されたM・ラッセル・バラード長老の「義にかなった女性たち」という記事は、とてもすばらしいものです。かつてのわたしは少し自信をなくしていましたが、今では霊的に鼓舞されています。

ブラジル・  
サンジョアン・ダ・ボア・ビスタステーク、  
ポンス・デ・カルダス第1ワード  
エリサンジェラ・ピニエイロ・ベシム・ソアレス

## 教会の 資料がその場で 入手できます



レッスンやお話の準備で  
困っていませんか？  
引用したいあの言葉、  
どこに書いてあるか  
思い出せないことはありませんか？

そんなとき、

[www.lds.org](http://www.lds.org) にアクセスして、

オンラインで

入手できる教会の出版物を

すべて載せたリストを

御覧ください。

(様々な言語で

見ることができます。)

ホームページの

画面右上隅の世界地図を

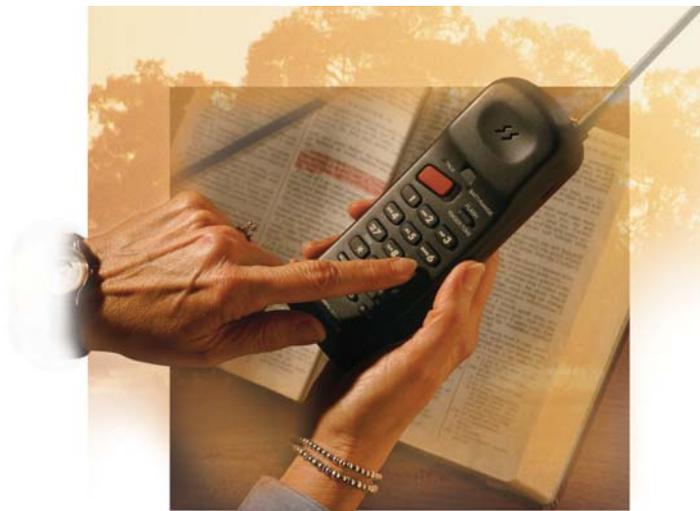
クリックしてください。

入手可能な資料は

言語によって異なります。



写真/ジョン・ルーク、  
写真はイメージです



**ゴ**ードン・B・ヒンクレー大管長は  
次のように語った。

「わたしたちのほとんどの祈りには  
問題があります。電話で食料品の注文を  
するような祈りになっているからです。  
注文が終われば即座に電話を切るように、  
祝福を願うとすぐに祈りを終えてしまいます。  
祈りの内容について、  
また、自分が求めることについて  
瞑想、熟考<sup>めいそう</sup>し、考える必要があります。  
人が人と語るように主と話をします。」  
ジョセフ・B・ワースリン長老  
「祈りを改善する」16ページ参照。